

(様式第10)

厚生労働大臣 殿

宮 大 医 医 第 69 号
令和 5 年 10 月 5 日
開設者名 国立大学法人 宮崎大学長
鮫 島 浩

宮崎大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒889-2192 宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地
氏名	国立大学法人 宮崎大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

宮崎大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原5200番地
電話(0985) 85 - 1510

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> 1	医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/> 2	医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="radio"/>	11リウマチ科		
診療実績							
・脳神経内科で神経内科の診療を実施。 ・感染症内科でアレルギー科の診療を実施。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科	○	7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	腫瘍内科	2	リハビリテーション科	3	病理診断科	4	形成外科	5	脳神経内科
6	糖尿病内科	7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
36				596	632

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	346	89	395.9
歯科医師	17	0	17
薬剤師	49	0	49
保健師	0	0	0
助産師	17	3	18.7
看護師	567	41	596.4
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	8	0	8
管理栄養士	11	0	11

職種	員数
看護補助者	100
理学療法士	16
作業療法士	7
視能訓練士	8
義肢装具士	0
臨床工学士	19
栄養士	0
歯科技工士	1
診療放射線技師	32

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	52
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	6	
その他の技術員	64	
事務職員	105	
その他の職員	22	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	51	眼科専門医	11
外科専門医	29	耳鼻咽喉科専門医	7
精神科専門医	7	放射線科専門医	11
小児科専門医	24	脳神経外科専門医	10
皮膚科専門医	6	整形外科専門医	22
泌尿器科専門医	15	麻酔科専門医	19
産婦人科専門医	16	救急科専門医	12
		合計	240

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (帖佐 悦男) 任命年月日 令和 3 年 10 月 1 日

平成17年10月1日～現在(医療安全管理委員会委員)
 平成19年4月1日～平成21年10月1日(医療安全管理部長)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	401.6 人	9.1 人	410.7 人
1日当たり平均外来患者数	1004.6 人	94.9 人	1099.5 人
1日当たり平均調剤数		2577.8	剤
必要医師数		102.2	人

必要歯科医師数	7	人
必要薬剤師数	33	人
必要(准)看護師数	251	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	414.4 ㎡	鉄筋コンクリート	病床数	16 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 276.4 ㎡		病床数	16 床		
	[移動式の場合] 台数 台					
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 ㎡					
	[共用室の場合] 共用する室名		薬剤部	医薬品管理室・薬剤管理指導室		
化学検査室	334 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	検体前処理装置、生化学自動分析装置 (TBA2000FR,TBA-FX8)、全自動血糖分析装置、グリコヘモグロビン分析計、自動電気泳動装置、全自動免疫測定装置 (i2000SR、cobas8000、e411)		
細菌検査室	87.2 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動薬剤感受性装置、自動血液培養装置、菌種同定質量分析装置、自動染色装置、P3検査室		
病理検査室	184.2 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	組織自動染色装置、細胞診自動染色装置、自動封入装置、自動免疫染色装置、サイトスピン、ThinPrep、Fish装置、全自動密閉式パラフィン包埋装置、パラフィン包埋ブロック作製装置、遠心分離機、マイクローム、スライドプリンター、ドラフト装置、セーフティラック、組織自動カセット印字機、恒温器、伸展器、温浴器、純水製造装置、顕微鏡、電子天秤、VOLTEX、排気機能付き切り出し台、撮影装置、フローユニット、凍結切片作製装置、安全キャビネット		
病理解剖室	52.5 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台、ストレッチャー、ホルマリン排気バケツBOX、解剖用骨切断鋸装置、パソコン、モニター、電子天秤、電子計量器、オートクレーブ、解剖器具一式、器具収納棚		
研究室	2650 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	パソコン、書庫、机 ほか		
講義室	553 ㎡	鉄筋コンクリート	室数 2 室	収容定員	475 人	
図書室	1908 ㎡	鉄筋コンクリート	室数 6 室	蔵書数	125,929 冊程度	

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	96.2 %	逆紹介率	104.0 %
算出	A: 紹介患者の数	9,419 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	11,518 人	

根拠	C:救急用自動車によって搬入された患者の数	1,237	人
	D:初診の患者の数	11,072	人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
近本 亮	熊本大学病院 医療の質・安全管理部	○	医療安全管理有識者	無	1
柏田 芳徳	柏田法律事務所		法律に関する識見者	無	1
森川 輝美	市民活動団体 就労支援アストモス		医療を受ける者	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
本院HP	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	アジア人の非小細胞肺癌における個別化医療の確立を目指した、遺伝子スクリーニングとモニタリングのための多施設共同前向き観察研究 (LC-SCRUM-Asia)	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 IV期または術後再発の特定の遺伝子異常を持つ非小細胞肺癌に対し、分子標的薬が非常に有効であり、長期的な予後延長を見込める(最も一般的な遺伝子変異EGFRの分子標的薬で18.9か月の延命効果あり)。多くの肺癌症例でスクリーニングをかけて、治療法が判明していない稀な遺伝子異常を検出し、新薬治療の治験を進めていく必要がある。がんセンター東病院を基幹施設とし、肺癌の遺伝子検査を行う研究である。			
医療技術名	ヒトT細胞白血病ウイルス1型(HTLV-1)陽性膠原病リウマチ性疾患専門外来	取扱患者数	31
当該医療技術の概要 HTLV-1感染症のある膠原病リウマチ性疾患患者の診療			
医療技術名	重症熱性血小板減少症(SFTS)ウイルス感染症早期診断検査試薬の改良・開発研究	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 致死的ウイルス感染症であるSFTSの早期診断試薬の改良及び開発を進めている。			
医療技術名	アドレノメデュリンを用いたCOVID-19による機械換気を要する肺炎の重症化予防—医師主導治験PhaseII試験	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 COVID-19肺炎重症患者におけるアドレノメデュリンの重症化予防, 有用性の検討			
医療技術名	アドレノメデュリンを用いたCOVID-19による中等症肺炎の重症化予防—医師主導治験PhaseII試験	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 COVID-19肺炎中等症患者におけるアドレノメデュリンの重症化予防, 有用性の検討			
医療技術名	ダニ媒介感染症の多施設共同レジストリ研究	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 宮崎県におけるダニ媒介感染症(重症熱性血小板減少症候群/日本紅斑熱/つつがむし病)の多施設共同レジストリ研究			
医療技術名	超音波内視鏡ガイド下胆道ドレナージ術	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 ERCP困難・不能例に対する超音波内視鏡を用いた胆道ドレナージ術を施行する。経胃的に肝内胆管にアプローチするEUS-HGSと経十二指腸球部的に肝外胆管にアプローチするEUS-CDSを施行している。前者は十二指腸狭窄・閉塞例に対して、後者は肝内胆管拡張が認められない例など施行している。			
医療技術名	ケミカルピーリング	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 尋常性ざ瘡等の疾患に対し行う。			
医療技術名	円形脱毛症へのDPCP療法	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 難治性の円形脱毛症に対し、DPCPを用いた免疫賦活療法を行っている。			

医療技術名	網膜変性患者の遺伝子解析	取扱患者数	18
当該医療技術の概要 網膜変性患者の疾患遺伝子を検索し、原因を解明する。			
医療技術名	Nested PCRによる細菌または真菌に起因する難治性の眼感染症に対する迅速診断	取扱患者数	46
当該医療技術の概要 難治性眼感染症の起炎菌を、nested PCRの手法を用いて検索する。			
医療技術名	DVC1-0401網膜下投与による網膜色素変性に対する視細胞保護遺伝子治療の第I/IIa相医師主導治験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 網膜色素変性に対し遺伝子治療薬DVC1-0401を網膜下に注入し、神経栄養因子hPEDFを過剰発現させ、安全性および視機能障害の進行を評価する効果を検討する医師主導治験。			
医療技術名	難聴遺伝子解析	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 保険診療で検出されなかった遺伝子変異を解析			
医療技術名	妊娠22～23週の超未熟児に対する集学的集中治療	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 妊娠22～23週で出生した未熟児は生存限界であり、呼吸循環管理に加え、消化管、皮膚、感染症対策など集学的な管理と緻密なケアとを必要とし、妊娠24週以降とは別レベルの高度医療が必要である。			
医療技術名	癒着胎盤の術前診断と周術期管理	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 妊娠中期から超音波画像、MRI画像を用いた画像診断と危機的出血を回避するための集学的(輸血部、放射線部、手術部、泌尿器科、麻酔科等)管理。			
医療技術名	内視鏡を用いた顎骨嚢胞に対する低侵襲手術	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 比較的大きな顎骨嚢胞の場合は、内視鏡を用いることで切開、骨削除範囲を最小限にすることで侵襲の少ない手術が可能となる。			
医療技術名	マイクロスコープを用いた低侵襲抜歯術	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 マイクロスコープを用いて抜歯を行うことにより、切開、骨削除等の身体的侵襲が少ない治療を行うことができる。			
医療技術名	在胎22週～24週で出生した児に対する全身管理	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 生育の限界にあるこの週数で出生した児に対する集学的治療。			
医療技術名	Ex utero intarapartum treatment	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 胎盤循環を保ったまま胎児の外科的処置を行う集学的治療。			
医療技術名	腹膜透析	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 新生児の腎不全に対して行う透析療法。			
医療技術名	新生児脳低温療法	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 新生児脳低温療法(BHT)は、低酸素性虚血性脳症(HIE)による恒久的な脳障害を予防あるいは軽減する目的で始められた治療法である。生後6時間以内に治療を開始し、目標深部温度34℃まで冷却する。指標は、食道温や直腸温を用いる。BHT施行中は、各種モニタリングを行い、体温管理と同時に呼吸循環、血液凝固、電解質、感染、痙攣などに注意する。冷却時間は72時間で復温を開始する。			

医療技術名	遺伝性疾患患者に対する遺伝カウンセリング	取扱患者数	242
-------	----------------------	-------	-----

当該医療技術の概要

遺伝性疾患患者ならびにその家族に対し、疾患の遺伝性、再発率、サポートグループの情報提供を行うとともに、心理的ケアを行う。保険収載されたBRCA1/2遺伝学的検査に関する連携協定を県内の医療施設と結んでおり、現在の連携施設数は14施設である。

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	22
取扱い患者数の合計(人)	418

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	3	67	リンパ管筋腫症	2
2	筋萎縮性側索硬化症	14	68	網膜色素変性症	18
3	脊髄性筋萎縮症	5	69	バッド・キアリ症候群	2
4	パーキンソン病	77	70	原発性胆汁性胆管炎 旧病名(原発性胆汁性肝硬変)	25
5	大脳皮質基底核変性症	2	71	原発性硬化性胆管炎	2
6	ハンチントン病	2	72	自己免疫性肝炎	20
7	シャルコー・マリー・トウス病	1	73	クローン病	252
8	重症筋無力症	65	74	潰瘍性大腸炎	323
9	多発性硬化症/視神経脊髄炎	48	75	好酸球性消化管疾患	4
10	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	19	76	ルビンシュタイン・テイビ症候群	1
11	封入体筋炎	3	77	若年性特発性関節炎 旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	1
12	多系統萎縮症	9	78	非典型溶血性尿毒症症候群	1
13	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	20	79	筋ジストロフィー	6
14	ライゾゾーム病	8	80	脊髄空洞症	1
15	副腎白質ジストロフィー	3	81	脊髄髄膜瘤	1
16	ミトコンドリア病	3	82	アイザックス症候群	1
17	もやもや病	19	83	先天性無痛無汗症	1
18	プリオン病	2	84	アレキサンダー病	1
19	HTLV-1関連脊髄症	6	85	レノックス・ガストー症候群	1
20	全身性アミロイドーシス	24	86	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1
21	神経線維腫症	25	87	スタージ・ウェーバー症候群	1
22	天疱瘡	18	88	結節性硬化症	9
23	表皮水疱症	1	89	色素性乾皮症	3
24	膿疱性乾癬(汎発型)	15	90	家族性良性慢性天疱瘡	1
25	中毒性表皮壊死症	2	91	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	15
26	高安動脈炎	12	92	特発性後天性全身性無汗症	6
27	結節性多発動脈炎	4	93	弾性線維性仮性黄色腫	3
28	顕微鏡的多発血管炎	29	94	マルファン症候群	3
29	多発血管炎性肉芽腫症	9	95	エーラス・ダンロス症候群	3
30	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	14	96	ウィルソン病	3
31	悪性関節リウマチ	1	97	低ホスファターゼ症	1
32	バージャー病	3	98	ウィリアムズ症候群	1
33	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	99	総動脈幹遺残症	1
34	全身性エリテマトーデス	161	100	修正大血管転位症	1
35	皮膚筋炎/多発性筋炎	102	101	完全大血管転位症	2
36	全身性强皮症	74	102	単心室症	4
37	混合性結合組織病	36	103	三尖弁閉鎖症	1
38	シェーグレン症候群	52	104	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	1
39	成人スチル病	10	105	ファロー四徴症	4
40	再発性多発軟骨炎	3	106	両大血管右室起始症	1
41	ベーチェット病	49	107	抗糸球体基底膜腎炎	2
42	特発性拡張型心筋症	28	108	一次性ネフローゼ症候群	30
43	肥大型心筋症	18	109	紫斑病性腎炎	4
44	再生不良性貧血	10	110	オスラー病	1
45	自己免疫性溶血性貧血	3	111	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1
46	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2	112	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	4
47	特発性血小板減少性紫斑病	8	113	フェニルケトン尿症	1
48	原発性免疫不全症候群	9	114	イソ吉草酸血症	1
49	IgA腎症	25	115	肝型糖原病	1
50	多発性嚢胞腎	16	116	シトステロール血症	2
51	黄色靱帯骨化症	13	117	家族性地中海熱	3
52	後縦靱帯骨化症	81	118	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アク ネ症候群	2
53	広範脊柱管狭窄症	5	119	強直性脊椎炎	11
54	特発性大腿骨頭壊死症	63	120	骨形成不全症	2
55	下垂体性ADH分泌異常症	21	121	軟骨無形成症	1
56	下垂体性PRL分泌亢進症	32	122	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
57	クッシング病	5	123	後天性赤芽球癆	1
58	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	21	124	遺伝性瘰癧	1
59	下垂体前葉機能低下症	122	125	IgG4関連疾患	7
60	先天性副腎皮質酵素欠損症	7	126	黄斑ジストロフィー	1
61	先天性副腎低形成症	1	127	レーベル遺伝性視神経症	1
62	アジソン病	3	128	好酸球性副鼻腔炎	47
63	サルコイドーシス	78	129	シトリン欠損症	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

64	特発性間質性肺炎	33	130	大理石骨病	1
65	肺動脈性肺高血圧症	17	131	特発性多中心性キャスルマン病	2
66	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	13	132	ハッチンソン・ギルフォード症候群	1
			133	ホモシスチン尿症	1

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	133
合計患者数(人)	2447

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ 感染対策向上加算1の注3:抗菌薬適正使用支援加算
・ 歯科外来診療環境体制加算2	・ 患者サポート体制充実加算
・ 歯科診療特別対応連携加算	・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・ 歯科診療特別対応連携加算	・ ハイリスク妊娠管理加算
・ 特定機能病院入院基本料(一般)(7対1)	・ ハイリスク分娩管理加算
・ 特定機能病院入院基本料の注11:入院栄養管理体制加算	・ 病棟薬剤業務実施加算1
・ 特定機能病院入院基本料(精神)(13対1)	・ 病棟薬剤業務実施加算2
・ 特定機能病院入院基本料の注4:重度認知症加算	・ データ提出加算2
・ 救急医療管理加算	・ 入退院支援加算1
・ 超急性期脳卒中加算	・ 入退院支援加算の注7:入院時支援加算
・ 診療録管理体制加算1	・ せん妄ハイリスク患者ケア加算
・ 医師事務作業補助体制加算1(15対1)	・ 精神疾患診療体制加算
・ 急性期看護補助体制加算(25対1)(看護補助者5割以上)	・ 精神科急性期医師配置加算2
・ 急性期看護補助体制加算の注2:夜間100対1急性期看護補助体制加算	・ 地域医療体制確保加算
・ 急性期看護補助体制加算の注3:夜間夜間看護体制加算	・ 地域歯科診療支援病院入院加算
・ 急性期看護補助体制加算の注4:看護補助体制充実加算	・ 救命救急入院料1
・ 看護職員夜間配置加算(12対1)	・ 救命救急入院料の注2のイ:精神疾患診断治療初回加算
・ 看護補助加算2	・ 救命救急入院料の注3:救急体制充実加算1
・ 療養環境加算	・ 救命救急入院料の注6:小児加算
・ 重症者等療養環境特別加算	・ 特定集中治療室管理料2

・ 無菌治療室管理加算1	・ 特定集中治療室管理料の注1:算定上限日数
・ 無菌治療室管理加算2	・ 特定集中治療室管理料の注2:小児加算
・ 放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	・ 特定集中治療室管理料の注4:早期離床・リハビリテーション加算
・ 緩和ケア診療加算	・ 総合周産期特定集中治療室管理料1
・ 精神科身体合併症管理加算	・ 総合周産期特定集中治療室管理料2
・ 精神科リエゾンチーム加算	・ 新生児治療回復室入院医療管理料
・ 摂食障害入院医療管理加算	・ 小児入院医療管理料2
・ 栄養サポートチーム加算	・ 小児入院医療管理料の注2:プレイルーム加算
・ 医療安全対策加算1	・ 小児入院医療管理料の注5:無菌治療管理加算(1・2)
・ 感染対策向上加算1	・ 看護職員処遇改善評価料(60)
・ 感染対策向上加算1の注2:指導強化加算	・ 臨床研修病院入院診療加算(基幹型)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・ 角結膜悪性腫瘍切除手術
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 羊膜移植術
・ がん患者指導管理料イ	・ 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・ がん患者指導管理料ロ	・ 緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・ がん患者指導管理料ハ	・ 緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・ がん患者指導管理料ニ	・ 網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・ 外来緩和ケア管理料	・ 網膜再建術
・ 移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・ 経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・ 移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・ 人工中耳植込術
・ 小児運動器疾患指導管理料	・ 人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・ 婦人科特定疾患治療管理料	・ 上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・ 二次性骨折予防継続管理料1	・ 内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・ 二次性骨折予防継続管理料3	・ 乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・ 院内トリアージ実施料	・ 乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・ 外来放射線照射診療料	・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・ ニコチン依存症管理料	・ 胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算	・ 胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ ハイリスク妊産婦共同管理料(I)	・ 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)
・ がん治療連携計画策定料	・ 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ 胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 薬剤管理指導料 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器安全管理料1 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器安全管理料2 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器安全管理料(歯科) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 胸腔鏡下弁形成術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 精神科退院時共同指導料1及び2 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 胸腔鏡下弁形成術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経皮的中隔心筋焼灼術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 遺伝学的検査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 骨髄微小残存病変量測定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
<ul style="list-style-type: none"> ・ BRCA1/2遺伝子検査(腫瘍細胞を検体とするもの)(血液を検体とするもの) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
<ul style="list-style-type: none"> ・ がんゲノムプロファイリング検査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 先天性代謝異常症検査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
<ul style="list-style-type: none"> ・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
<ul style="list-style-type: none"> ・ ウイルス・細菌核酸多項目同時検出 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 検体検査管理加算(IV) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際標準検査管理加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 遺伝カウンセリング加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・ バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 遺伝性腫瘍カウンセリング加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)

・ 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・ 胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・ 胎児心エコー法	・ 体外衝撃波胆石破碎術
・ ヘッドアップティルト試験	・ 腹腔鏡下肝切除術
・ 人工膵臓検査、人工膵臓療法	・ 体外衝撃波膵石破碎術
・ 長期継続頭蓋内脳波検査	・ 腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・ 単線維筋電図	・ 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・ 神経学的検査	・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ 補聴器適合検査	・ 腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 黄斑局所網膜電図	・ がん患者指導管理料ニ
・ 全視野精密網膜電図	・ 生体腎移植術
・ ロービジョン検査判断料	・ 膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
・ コンタクトレンズ検査料1	・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 内服・点滴誘発試験	・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ CT透視下気管支鏡検査加算	・ 人工尿道括約筋植込・置換術
・ 有床義歯咀嚼機能検査1のイ	・ 膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
・ 有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査	・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・ 精密触覚機能検査	・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ 画像診断管理加算1	・ 腹腔鏡下仙骨腫固定術
・ ポジトロン断層撮影	・ 腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影	・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
・ CT撮影及びMRI撮影	・ 胎児胸腔・羊水腔シャント術
・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・ 胎児輸血術及び臍帯穿刺
・ 外来化学療法加算1・外来腫瘍化学療法診療料1	・ 体外式膜型人工肺管理料

・ 無菌製剤処理料	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・ 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
・ 心大血管疾患リハビリテーション料の注3に規定する初期加算	・ 輸血管管理料Ⅰ
・ 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・ 貯血式自己血輸血管理体制加算
・ 脳血管疾患等リハビリテーション料の注3に規定する初期加算	・ コーディネート体制充実加算
・ 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・ 自己生体組織接着剤作成術
・ 運動器リハビリテーション料の注3に規定する初期加算	・ 自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
・ 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・ 同種クリオプレシピテート作製術
・ 呼吸器リハビリテーション料の注3に規定する初期加算	・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・ がん患者リハビリテーション料	・ 歯周組織再生誘導手術
・ 歯科口腔リハビリテーション料2	・ 手術時歯根面レーザー応用加算
・ 医療保護入院等診療料	・ 広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・ 硬膜外自家血注入	・ 歯根端切除手術の注3
・ 人工腎臓	・ レーザー機器加算
・ 導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・ 麻酔管理料(Ⅰ)
・ 難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	・ 麻酔管理料(Ⅱ)
・ 移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・ 放射線治療専任加算
・ 手術用顕微鏡加算	・ 外来放射線治療加算
・ 口腔粘膜処置	・ 高エネルギー放射線治療
・ う蝕歯無痛的窩洞形成加算	・ 強度変調放射線治療(IMRT)
・ CAD/CAM冠	・ 画像誘導放射線治療(IGRT)
・ 歯科技工加算1及び2	・ 体外照射呼吸性移動対策加算
・ センチネルリンパ節加算	・ 定位放射線治療

<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定位放射線治療呼吸性移動対策加算
<ul style="list-style-type: none"> ・ 四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 画像誘導密封小線源治療加算
<ul style="list-style-type: none"> ・ 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保険医療機関間の連携による病理診断
<ul style="list-style-type: none"> ・ 後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病理診断管理加算2
<ul style="list-style-type: none"> ・ 椎間板内酵素注入療法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 悪性腫瘍病理組織標本加算
<ul style="list-style-type: none"> ・ 原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラウン・ブリッジ維持管理料
<ul style="list-style-type: none"> ・ 脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科矯正診断料
<ul style="list-style-type: none"> ・ 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの) 	

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額		補助元または委託元
経カテーテル大動脈弁留置周術期の総合的血栓形成能評価法による至適抗血栓療法確立	海北 幸一	循環器内科	1,560,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
末梢血単球の糖代謝モニタリングを用いた糖尿病性動脈硬化進展予防スキームの構築	松浦 祐之介	循環器内科	1,040,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
がん組織における心筋特異的トロポニンT発現の病態生理学的意義	鶴田 敏博	循環器内科	1,430,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
慢性腎臓病進行例(CKD G3b G5)の予後向上のための予後、合併症、治療に関するコホート研究(REACH J CKD cohort)	菊池 正雄	腎臓内科	1,000,000	委	国立大学法人筑波大学
小胞体ストレス応答と、腫瘍由来fibrocyteに着目する骨髄増殖性腫瘍研究	下田 和哉	血液内科	4,420,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
マウスモデルによるATLL腫瘍形成メカニズムの解明と腫瘍幹細胞プロファイルの同定	亀田 拓郎	血液内科	1,170,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
IFN α シグナル伝達および腎病変の形成機構に着目した骨髄増殖性腫瘍の病態制御	田平 優貴	血液内科	1,560,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
遺伝子異常の全貌とクローン構造の理解に基づくATL個別化診療の確立	下田 和哉	血液内科	20,800,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
シングルセル免疫動態解析によるHTLV-1感染状態・関連疾患における宿主-病原体相互作用の統合的理解	下田 和哉	血液内科	2,600,000	委	国立研究開発法人国立がん研究センター
遺伝子発現制御法を用いた多発性硬化症の成因解明と治療探索研究	中里 祐毅	脳神経内科	2,080,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
1細胞解析結果に基づく肺癌の発癌責任間葉サブクラスターとCAF起源細胞の決定	柳 重久	呼吸器内科	754,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
オクタン酸トリグリセリドを用いた呼吸不全力ヘキシア包括的治療法の開発研究	松元 信弘	呼吸器内科	1,690,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
グレリンシグナルの活性化による高齢者肺炎サルコペニアへの新規治療法の開発	坪内 拓伸	呼吸器内科	1,560,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
経時的感染者検体の多角的・高精細研究アプローチによるHTLV病原性発現機序解明	梅北 邦彦	膠原病・感染症内科	650,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
HTLV-1陽性関節リウマチの炎症病態におけるIFNシグネチャーの解明	梅北 邦彦	膠原病・感染症内科	1,170,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
尿中蛋白質断片の網羅的解析による日和見感染症の新規診断法の開発	宮崎 泰可	膠原病・感染症内科	1,820,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
HAMならびに類縁疾患の患者レジストリによる診療連携体制および相談機能の強化と診療ガイドラインの改訂	梅北 邦彦	膠原病・感染症内科	200,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
早期特発性肺線維症患者に対するニンテダニブ投与の安全性と忍容性に関する解析	宮崎 泰可	膠原病・感染症内科	33,000	委	国立大学法人長崎大学
HTLV-1の総合的な感染対策に資する研究	梅北 邦彦	膠原病・感染症内科	1,300,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
薬剤耐性糸状菌真菌症の制御に向けた検査薬・治療薬の研究開発	宮崎 泰可	膠原病・感染症内科	28,600,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
新たな手法を用いた肝炎ウイルス検査受検率・陽性者受診率の向上に資する研究	永田 賢治	消化器内科	400,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

光遺伝学を用いた慢性の痒み成立機序へのヘモキニン-1の関与についての研究	船橋 英樹	精神科	390,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
パーキンソン病モデルラットのアロディニアに関連した線条体アストロサイトの機能解析	石田 康	精神科	1,690,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
神経同期活動を軸にした統合失調症の橋渡し研究:病態解明と新規治療法開発にむけて	平野 羊嗣	精神科	141,812	補	科学研究費補助金(文部科学省)
脳構造と脳機能から精神疾患を再分類する取り組み:5カ国国際共同研究	平野 羊嗣	精神科	1,423,472	補	科学研究費補助金(文部科学省)
ヒトiPS細胞由来腎臓オルガノイドを用いたLMX1B変異に伴う腎症の病態解明	田中 悦子	小児科	2,600,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
小児急性骨髄性白血病(de novo AML)に対する標準的治療法の確立	盛武 浩	小児科	260,000	委	国立大学法人京都大学
クリック反応技術と軸配位子糖鎖連結ポリフィリン錯体を融合した革新的PDTの開発	七島 篤志	肝胆膵外科	1,300,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
母親由来キメラ細胞の定量的解析による胆道閉鎖症の病因究明と予後予測研究	榎屋 隆太	消化管・内分泌・小児外科	1,040,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
食道癌に対する光線力学療法による薬剤耐性軽減効果の証明と新規治療開発に向けた検証	甲斐 健吾	消化管・内分泌・小児外科	1,040,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
重症二次性三尖弁逆流に対するスパイラル・サスペンション法の有効性に関する臨床研究	古川 貢之	心臓血管外科	39,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
KPC confettiマウスがもたらす膵癌微小環境制御の新たな理解	富永 洋平	呼吸器・乳腺外科	130,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
ロコモティブシンドロームの評価法の開発	帖佐 悦男	整形外科	2,000,000	委	小林市立病院
コロナ禍による整形外科手術および一般人の運動器機能への影響調査	帖佐 悦男	整形外科	1,250,000	委	公益社団法人日本整形外科学会
自然発症腎形成不全マウスを用いた腎尿路発生の遺伝学的機序の解明	賀本 敏行	泌尿器科	156,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
ヒト化マウスを用いた腎細胞癌PDXモデルの樹立とMET阻害薬効果予測因子の同定	向井 尚一郎	泌尿器科	780,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
緑内障評価のための電気生理学的手法に基づくPhNRの研究	日高 貴子	眼科	650,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
網膜色素変性を自然発症するカニクイザルの繁殖と治療法開発への応用	池田 康博	眼科	1,300,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
短後毛様動脈虚血による正常眼圧緑内障モデルの作成とアドレノメジュリン効果の検討	中馬 秀樹	眼科	1,430,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
リパスジルを用いた未熟児網膜症に対する新規点眼薬の開発	池田 康博	眼科	1,560,000	委	国立大学法人九州大学
網膜色素変性の進行を抑制するスタチン封入ナノ粒子薬の開発	池田 康博	眼科	1,450,800	委	国立大学法人九州大学
聴覚時間情報処理に関する大脳聴覚野機能の解明	高橋 邦行	耳鼻いんこう・頭頸部外科	943,802	補	科学研究費補助金(文部科学省)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

周産期予後改善を目指したウレアブ ラズマ陽性母体および新生児治療 に関する臨床的研究	児玉 由紀	産科・婦人科	1,560,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
電子密度画像と神経腫の細胞密 度の相関性の検討	東 美菜子	放射線科	1,170,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
分子結合技術を用いた新たな造影 剤による革新的がんMRI画像化技 術の開発	東 美菜子	放射線科	65,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
静脈血栓塞栓の質的診断に繋がる Dual-energyCTによる血栓の成分解 析	古小路 英二	放射線科	780,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
オプトジェネティクスを用いた神経障 害性疼痛モデルマウスの作製と疼 痛機序の解明	丸田 豊明	麻酔科	1,105,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
移植患者の免疫抑制薬による疼痛 の発症メカニズムを明らかにしその 治療法を確立する	丸田 豊明	麻酔科	390,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
神経膠芽腫において代謝経路再編 成が細胞増殖や治療抵抗性に与 える機序の解明	渡邊 孝	脳神経外科	390,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
代謝経路再編成が概日リズム経路 を介し、幹細胞性維持、細胞死回避 に及ぼす影響の解明	横上 聖貴	脳神経外科	2,340,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
オルガノイド・シングルセル解析法 によるグリオーマ血管擬態の分子 機構解明	山下 真治	脳神経外科	1,950,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
小児慢性特定疾患児の口腔疾患と 口腔・腸内細菌叢・慢性疾患との関 連を解明する	永田 順子	歯科口腔外科	1,170,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
口腔扁平上皮癌におけるリンパ節 転移の新規遺伝子診断アルゴリズム の確立	山下 善弘	歯科口腔外科	390,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
南海トラフ地震における災害医療対 応シミュレーション・システムの開発	落合 秀信	救急科	65,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
心筋梗塞発症リスクの高い危険な プラーク、血栓形成能の解析	前川 和也	病理診断科	650,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
胎盤血栓症における組織因子、プロ テアーゼ活性化受容体の役割	佐藤 勇一郎	病理診断科	1,430,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
妊産婦死亡の主因である羊水塞栓 症における血栓性病態の解明	阿萬 紫	病理診断科	1,040,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
がん微小環境による抗がん薬耐性 機序解明と新規分子標的薬の開発	池田 龍二	薬剤部	520,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
免疫抑制薬の新規薬物動態制御理 論に基づくリバーストランスレーショ ナルリサーチ	吉川 直樹	薬剤部	1,040,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
オートファジー細胞死を標的とする 新規肺腺癌治療薬の開発	南 謙太郎	薬剤部	1,560,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
ニーマン・ピック病C型の臨床課題を 克服する次世代型コレステロール輸 送療法の構築	山田 侑世	薬剤部	1,170,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
血清クレアチニン値による腎機能評 価に基づくバンコマイシンの新規投 与設計法の構築	浦田 修平	薬剤部	480,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
癌病態進展因子である α 1-酸性糖 タンパク質の異性体間における機能 差異解析	松坂 幸太郎	薬剤部	2,210,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

看護系大学教員の医療安全教育力向上のための教材の開発	甲斐 由紀子	医療安全管理部	156,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
複数項目の値の変動に依存し動的に出現が変化する項目の予測の実現と評価	荒木 賢二	患者支援センター	585,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
複数項目の値の変動に依存し動的に出現が変化する項目の予測の実現と評価	小川 泰右	患者支援センター	195,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
超高齢社会の転院・転所情報の共有技術支援及び技術導入がもたらす社会的課題の検討	鈴木 斎王	患者支援センター	1,300,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
壊死性腸炎根絶を目指したアドレノメデュリンによる革新的予防・治療法の開発	中目 和彦	総合周産期母子医療センター	650,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
低酸素性虚血性脳症におけるミクログリアでのLOX-1の役割解明と新規治療法の開発	青木 良則	総合周産期母子医療センター	1,300,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
HGFクラスターエフェクトによる治療戦略-壊死性腸炎の救世主になり得るか?	中目 和彦	総合周産期母子医療センター	65,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)

計70件

(注)1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Kohei Moribayashi, Yunosuke Matsuura, Koichi Kaikita	循環器内科	Stratifying Bleeding Risk and Beyond – Predicting Where Bleeding Will Occur	Circ J. 2022 Apr 25; 86(5):784-786	Others
2	Toshihiro Tsuruda, Yuichiro Sato, Masaki Tomita et al.	循環器内科	Aberrant Expression of Cardiac Troponin- T in Lung Cancer Tissues in Association With Pathological Severity	Front. Cardiovasc. Med. 2022 Apr 11; 9:833649	Original Article
3	Toshihiro Tsuruda, Atsushi Yamashita, Misa Otsu et al.	循環器内科	Angiotensin II Induces Aortic Rupture and Dissection in Osteoprotegerin- Deficient Mice	J Am Heart Assoc. 2022 Apr 19; 11(8):e025336	Original Article
4	Toshihiro Tsuruda, Takaaki Hamahata, George J Endo et al.	循環器内科	Bystander-witnessed cardiopulmonary resuscitation by nonfamily is associated with neurologically favorable survival after out-of-hospital cardiac arrest in Miyazaki City District	PLoS One. 2022 Oct 21; 17(10):e0276574	Original Article
5	Yunosuke Matsuura, Kohei Moribayashi, Koichi Kaikita	循環器内科	Optimal Antithrombotic Therapy in Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention: A Focused Review on High Bleeding Risk	J Atheroscler Thromb. 2022 Oct 1; 29(10):1409- 1420	Review

6	Toshihiro Kita, Shinya Ashizuka, Teruyuki Takeda et al.	循環器内科	Adrenomedullin for biologic-resistant Crohn's disease: A randomized, double-blind, placebo-controlled phase 2a clinical trial	J Gastroenterol Hepatol. 2022 Nov; 37(11):2051-2059	Original Article
7	Danfeng Jiang, Minami Matsuzaki, Yukiko Kawagoe et al.	循環器内科	Analysis of Mechanisms for Increased Blood Pressure Variability in Rats Continuously Infused with Angiotensin II	Journal of the renin-angiotensin-aldosterone system : JRAAS. 2023 Jan 4; 2023:4201342	Original Article
8	Hiroko Inagaki, Yoshitaka Goto, Hironobu Sugiyama et al.	腎臓内科	Usefulness of a new DUV-LED device for the control of infection by Escherichia coli, Staphylococcus aureus, mycobacteria and spore-forming bacteria	Front. Public Health. 2022 Dec 5; 10:1053729	Letter
9	Takuro Kameda, Kotaro Shide, Ayako Kamiunten et al.	血液内科	CARD11 mutation and HBZ expression induce lymphoproliferative disease and adult T-cell leukemia/lymphoma	Communications Biology. 2022 Nov 29; 5(1):1309	Original Article
10	Happy Kurnia Permatasari, Shingo Nakahata, Tomonaga Ichikawa et al.	血液内科	Oncogenic isoform switch of tumor suppressor BCL11B in adult T-cell leukemia/lymphoma	Experimental Hematology. 2022 Jul; 111:41-49	Original Article
11	Tomonaga Ichikawa, Kazuhiro Sugamoto, Yasushi Matsuura et al.	血液内科	Inhibition of adult T-cell leukemia cell proliferation by polymerized proanthocyanidin from blueberry leaves through JAK proteolysis	Cancer Science. 2022 Apr; 113(4):1406-1416	Original Article

12	Takashi Sugiyama, Naoya Murao, Hisae Kadowaki et al.	脳神経内科	Chemical chaperones ameliorate neurodegenerative disorders in Derlin-1-deficient mice via improvement of cholesterol biosynthesis	Sci Rep. 2022 Dec 17; 12(1):21840	Original Article
13	Taisuke Uchida, Hideki Yamaguchi, Takayuki Kawabata et al.	内分泌・代謝・糖尿病内科	Longitudinal changes in an autonomously functioning thyroid nodule with coexisting follicular thyroid carcinoma over 14 years	Oxford Medical Case Reports. 2022 Apr 19; 2022(4):omac041	Case report
14	Hiroaki Ueno, Weidong Zhang, Masamitsu Nakazato	内分泌・代謝・糖尿病内科	Regulation of feeding and therapeutic application of bioactive peptides	Pharmacology & Therapeutics. 2022 Nov; 239:108187	Review
15	Yudai Uehira, Hiroaki Ueno, Emi Ebihara et al.	内分泌・代謝・糖尿病内科	Current status of diabetes treatment in Miyazaki Prefecture, Japan: Results of a questionnaire survey conducted in 2016 and 2020	Journal of Diabetes Investigation. 2022 Jun; 13(6):1011-1020	Original Article
16	Hiroaki Ueno, Naoki Haraguchi, Mayumi Azuma et al.	内分泌・代謝・糖尿病内科	Active Consumption of Konjac and Konjac Products Improves Blood Glucose Control in Patients with Type 2 Diabetes Mellitus	Journal of the American Nutrition Association. 2023 Feb; 42(2):123-129	Original Article
17	Taisuke Uchida, Hiroaki Ueno, Ayaka Konagata et al.	内分泌・代謝・糖尿病内科	Improving the Effects of Imeglimin on Endothelial Function: A Prospective, Single-Center, Observational Study	Diabetes therapy. 2023 Mar; 14(3):569-579	Original Article

18	Yuri Komaki, Yoshinori Ozono, Kenichi Nakamura et al.	消化器内科	Efficacy and safety of glecaprevir and pibrentasvir in Japanese patients with hepatitis C virus infection aged 75 years or older	BMC Gastroenterol. 2022 Apr 28; 22(1):210	Original Article
19	Keisuke Uchida, Yoshinori Ozono, Naomi Uchiyama et al.	消化器内科	Liver abscess in advanced hepatocellular carcinoma after atezolizumab plus bevacizumab treatment: A case report	Medicine. 2022 Sep 2; 101(35):e30486	Case report
20	Hotaka Tamura, Koji Nakashima, Naomi Uchiyama et al.	消化器内科	Hematochezia Due to Panitumumab- induced Colitis with Vitamin K Deficiency	Internal Medicine. 2022 May 15; 61(10):1503-1509	Case report
21	Kazuya Yasuda, Ryuichiro Takeda, Ryuji Ikeda et al.	精神科	Characteristics of psychiatric patients with hypokalemia after yokukansan administration: A retrospective study	Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports. 2023 Feb 1; 2(1): e76	Original Article
22	Hiroaki Kubo, Hiromi Urata, Motohiro Sakai et al.	精神科	3-day intervention program for family members of hikikomori sufferers: A pilot randomized controlled trial	Frontiers in Psychiatry. 2023 Jan 9; 13:1029653	Others
23	Misayo Matsuyama, Hirotake Sawada, Shinobu Inoue et al.	小児科	Goiter in a 6-year- old patient with novel thyroglobulin gene variant (Gly145Glu) causing intracellular thyroglobulin transport disorder: Correlation between goiter size and the free T3 to free T4 ratio	Clinical Pediatric Endocrinology. 2022 Jul 13; 31(3):185-191	Case report

24	Atsushi Nanashima, Susumu Eguchi, Toru Hisaka et al.	肝胆膵外科	Risk Factors of Complications from Central Bisectionectomy (H458) for Hepatocellular Carcinoma: A Multi-Institutional Single-Arm Analysis	Cancers. . 2023 Mar 13; 15(6):1740	Original Article
25	Atsushi Nanashima, Hiroki Takamori, Naoya Imamura et al.	肝胆膵外科	Retroperitoneal-first dissection approach at the dorsal space for a huge serous cystic neoplasm of the pancreatic tail: a case report	Surg Case Rep. 2023 Jan 3; 9(1):2	Case report
26	Atsushi Nanashima, Masahide Hiyoshi, Naoya Imamura et al.	肝胆膵外科	Liver hanging maneuver is suitable in major hepatectomy for liver malignancies over 5 cm	J Oncol. 2022 Sep 19; 38(3):215-220	Original Article
27	Atsushi Nanashima, Masanori Komi, Naoya Imamura et al.	肝胆膵外科	Novel Mathematical Diagnostic Analysis of Malignant Biliary Stenosis Using Magnetic Resonance Cholangiography in Patients Undergoing Pancreaticoduodenectomy	Cancer Diagn Progn. 2022 Nov 3; 2(6):668-680	Original Article
28	Atsushi Nanashima, Hiroki Takamori, Naoya Imamura et al.	肝胆膵外科	Successful Right Hepatectomy for Recurrent Liver Tumor Originating from an Inferior Vena Cava Leiomyosarcoma: A Follow-Up Case Report	Am J Case Rep. 2022 Oct 27; 23:e938009	Case report
29	Atsushi Nanashima, Naoya Imamura, Takahiro Nishida et al.	肝胆膵外科	A rare case of long-term survival of a patient who underwent radical operations for sextuple malignancies	Clin J Gastroenterol. 2022 Dec; 15(6):1169-1172	Case report

30	Atsushi Nanashima, Yukinori Tanoue, Masahide Hiyoshi et al.	肝胆膵外科	Prognostic Value of Repeat Hepatectomy for Hepatocellular Carcinoma Patients	Anticancer Res. 2022 Sep; 42(9):4553-4561	Original Article
31	Koichi Yano, Narantsog Choijookhuu, Makoto Ikenoue et al.	肝胆膵外科	Spatiotemporal expression of HMGB2 regulates cell proliferation and hepatocyte size during liver regeneration	Sci Rep. 2022 Jul 13; 12(1):11962	Original Article
32	Atsushi Nanashima, Yukinori Tanoue, Koichi Yano et al.	肝胆膵外科	Relationship of immunonutritional factor with changes in liver volume after portal vein embolization	Surg Open Sci. 2022 May 28; 9:117-124	Original Article
33	Masahide Hiyoshi, Kengo Kai, Takeomi Hamada et al.	肝胆膵外科	Curative remnant total pancreatectomy for recurrent pancreatic acinar cell carcinoma: A case report	Int J Surg Case Rep. 2022 May; 94:107091	Case report
34	Ryuta Masuya, Makoto Matsukubo, Kazuhiko Nakame et al.	消化管・内分泌・小児外科	Using indocyanine green fluorescence in laparoscopic surgery to identify and preserve rare branching of the right hepatic artery in pediatric congenital biliary dilatation	Surg Today. 2022 Oct; 52(10):1510-1513	Original Article
35	Takashi Asada, Shingo Nakahata, Yanuar Rahmat Fauzi et al.	消化管・内分泌・小児外科	Integrin α 6A (ITGA6A)-type Splice Variant in Extracellular Vesicles Has a Potential as a Novel Marker of the Early Recurrence of Pancreatic Cancer	Anticancer Res. 2022 Apr; 42(4):1763-1775	Original Article

36	Ryuta Masuya, Toshihiro Muraji, Toshio Harumatsu et al.	消化管・内分泌・小児外科	Biliary atresia: graft-versus-host disease with maternal microchimerism as an etiopathogenesis	Transfus Apher Sci. 2022 Apr; 61(2):103410	Original Article
37	Ryuta Masuya, Kazuhiko Nakame, Kosei Tahira et al.	消化管・内分泌・小児外科	Laparoscopic dome resection for pediatric nonparasitic huge splenic cyst safely performed using indocyanine green fluorescence and percutaneous needle grasper	Asian J Endosc Surg. 2022 Jul; 15(3):693-696	Original Article
38	Ryuta Masuya, Mitsuru Muto, Kazuhiko Nakame et al.	消化管・内分泌・小児外科	Impact of the Number of Board-Certified Pediatric Surgeons per Pediatric Population on the Outcomes of Laparoscopic Fundoplication for Neurologically Impaired Patients	J Laparoendosc Adv Surg Tech A. 2022 May; 32(5):571-575	Original Article
39	Ryuta Masuya, Mitsuru Muto, Koshiro Sugita et al.	消化管・内分泌・小児外科	Physical growth and social prognosis of esophageal atresia after 15 years of age	Annals of Pediatric Surgery. 2022 May 26; 18(1)	Original Article
40	Kengo Kai, Takeomi Hamada, Yuichiro Sato et al.	消化管・内分泌・小児外科	Extracellular Volume Fraction Calculated Using Contrast-Enhanced Computed Tomography as a Biomarker of Oxaliplatin-Induced Sinusoidal Obstruction Syndrome: A Preliminary Histopathological Analysis	Journal of Oncology. 2023 Feb 14; 2023:1440257	Original Article
41	Ryuta Masuya, Toshihiro Muraji, Sami B Kanaan et al.	消化管・内分泌・小児外科	Circulating maternal chimeric cells have an impact on the outcome of biliary atresia	Frontiers in Pediatrics. 2022 Sep 20; 10:1007927	Original Article

42	Shoei Kuroki, Takanori Ayabe, Hiroyuki Tanaka et al.	呼吸器・乳腺外科	A spontaneous reduction in tumor size of a thymic carcinoma: a case report	Surgical Case Reports. 2022 Aug 12; 8(1):154	Case report
43	Shoei Kuroki, Takanori Ayabe, Toshihiro Gi et al.	呼吸器・乳腺外科	Intrapulmonary solitary fibrous tumor coexisting with lung adenocarcinomas	Surgical Case Reports. 2022 Aug 2; 8(1):150	Case report
44	Takuya Tajima, Osamu Ota, Masataka Nagayama et al.	整形外科	Head Injury Assessment in the Elite Level Rugby Union in Japan: Review of 3 Seasons	International Journal of Sports Medicine. 2022 Sep; 43(10):889-894	Review
45	Takuji Yokoe, Takuya Tajima, Shuichi Kawagoe et al.	整形外科	Does the contralateral healthy ankle of patient with ipsilateral mechanical lateral ankle laxity show greater lateral ankle laxity? Evaluation of the anterior talofibular ligament by stress ultrasonography	BMC Musculoskeletal Disorders. 2022 Sep 30; 23(1):887	Original Article
46	Takuji Yokoe, Takuya Tajima, Nami Yamaguchi et al.	整形外科	Fixation of an Osteochondral Lesion of the Femoral Intercondylar Groove Using Autogenous Osteochondral Grafts and Bioabsorbable Pins in a Patient with Open Physes: A Case Report	medicina. 2022 Oct 26; 58(11):1528	Case report
47	Takuji Yokoe, Takuya Tajima, Nami Yamaguchi et al.	整形外科	The Results of Orthopaedic Medical Examinations in Adolescent Amateur Weightlifters	International Journal fo Environmental Research and Public Health. 2022 Oct 27; 19(21):13947	Original Article

48	Takuji Yokoe, Takuya Tajima, Nami Yamaguchi et al.	整形外科	A Traumatic Neuroma Formation Following Fasciotomy for the Treatment of Tibialis Anterior Muscle Herniation: A Case Report	medicina. 2023 Feb 27; 59(3):466	Case report
49	Hiroyuki Imazato, Nobuyasu Takahashi, Akira Sawaguchi et al.	整形外科	Insertion sites of the muscles attached to the clavicle: a cadaveric study of the clavicle	BMC Musculoskeletal Disorders. 2023 Mar 3; 24(1):160	Original Article
50	Takuji Yokoe, Koki Ouchi, Taisei Matsumoto et al.	整形外科	Effect of the volume of resected discoid lateral meniscus on the contact stress of the tibiofemoral joint: A finite element analysis	The Knee. 2023 Mar 9; 42:57-63	Original Article
51	Takuji Yokoe, Takuya Tajima, Nami Yamaguchi et al.	整形外科	A longer duration from injury to surgery is associated with preoperative deterioration of an isolated meniscal tear in patients aged 40 years or older	J Orthop Surg (Hong Kong). 2022 May; 30(2):1-9	Original Article
52	Shihoko Miyazaki, Taro Funamoto, Tomohisa Sekimoto et al.	整形外科	EPLIN β Is Involved in the Assembly of Cadherin-catenin Complexes in Osteoblasts and Affects Bone Formation	Acta Histochem Cytochem. 2022 Jun 29; 55(3):99-110	Original Article
53	Takuji Yokoe, Takuya Tajima, Nami Yamaguchi et al.	整形外科	Elective one-stage all four-ligament reconstruction after open knee dislocation: A case report	J Orthop Sci. 2022 May; 27(3):743-749	Case report

54	Deokcheol Lee, Keisuke Kawano, Shotaro Ishida et al.	整形外科	The impact of helicopter emergency medical services and craniocervical traction on the early reduction of cervical spine dislocation in a rural area of Japan	J Orthop Sci. 2022 May; 27(3):606-613	Original Article
55	Nami Yamaguchi, Etsuo Chosa, Takuya Tajima et al.	整形外科	Symptomatic discoid lateral meniscus shows a relationship between types and tear patterns, and between causes of clinical symptom onset and the age distribution	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2022 Apr; 30(4):1436-1442	Original Article
56	Fan Yang, Takuji Yokoe, Koki Ouchi et al.	整形外科	Influence of the Tibial Tunnel Angle and Posterior Tibial Slope on "Killer Turn" during Posterior Cruciate Ligament Reconstruction: A Three-Dimensional Finite Element Analysis	Journal of Clinical Medicine. 2023 Jan 19; 12(3):805	Original Article
57	Rinko Uchida, Amy Hombu, Yasuyuki Ishida et al.	看護学科 (整形外科)	Investigation of cryotherapy for pain relief after arthroscopic shoulder surgery	Journal of Orthopaedic Surgery and Research. 2022 Dec 20; 17(1):553	Original Article
58	Etsuo Chosa	整形外科	An encouragement of study abroad: My precious experience and treasure from study abroad	Journal of Orthopaedic Science. 2022 Sep; 27(5):963-964	Others
59	Rieko Nemoto, Yotaro Nishikawa, Kosuke Mochida et al.	皮膚科	T-cell prolymphocytic leukemia with follicular mucinosis	International Journal of Dermatology. 2023 Mar; 62(3):e151-e153	Letter

60	Kosuke Mochida, Shingo Nakahata, Yutaka Suzuki et al.	皮膚科	Prognostic analysis of smoldering ATLL with skin eruptions based on genomic aberrations	Journal of dermatological science. 2023 Feb; 109(2):80-88	Original Article
61	Masato Fujii, Takahiro Akioka, Shoichi Kimura et al.	泌尿器科	Possible role of combined therapy targeting MET and pro-HGF activation for renal cell carcinoma: analysis by human HGF-producing SCID mice	Hum Cell. 2023 Mar; 36(2):775-785	Original Article
62	Takahiro Nagai, Naoki Terada, Masato Fujii et al.	泌尿器科	Identification of the α 2 chain of interleukin-13 receptor as a potential biomarker for predicting castration resistance of prostate cancer using patient-derived xenograft models	Cancer reports. 2023 Feb; 6(2):e1701	Original Article
63	Shoichiro Mukai, Naotaka Sakamoto, Hiroaki Kakinoki et al.	泌尿器科	Serum IgG4 Concentration Is a Potential Predictive Biomarker in Glucocorticoid Treatment for Idiopathic Retroperitoneal Fibrosis	J Clin Med. 2022 Jun 20; 11(12):3538	Original Article
64	Isamu Otsuka, Naoki Terada, Hideyasu Iwamoto et al.	泌尿器科	Comparison of Safety and Efficacy in Endoscopic Combined Intrarenal Surgery Performed in the Lateral Decubitus and Galdakao-modified Supine Valdivia Positions	Urology. 2023 Feb; 172:49-54	Original Article
65	Naoki Terada, Atsuro Sawada, Hiroaki Kawanishi et al.	泌尿器科	The efficacy of sequential therapy with docetaxel and cabazitaxel for castration-resistant prostate cancer: A retrospective multi-institutional study in Japan	International Journal of Urology. 2023 Feb; 30(2):227-234	Original Article

66	Naoki Terada, Rihito Aizawa, Keiji Nihei et al.	泌尿器科	Narrative review of local prostate and metastasis-directed radiotherapy in the treatment of metastatic prostate cancer	Japanese Journal of Clinical Oncology. 2022 May 31; 52(6):633-641	Original Article
67	K O Okabe, Naoki Terada, Tatsuya Shirakawa et al.	泌尿器科	Efficacy and Safety of Radium-223 for Castration-resistant Prostate Cancer With Bone Metastasis Before and After Docetaxel	Anticancer Research. 2022 Oct; 42(10):4981-4987	Original Article
68	Yusuke Matsuda, Takumi Okuda, Ai Kamie et al.	耳鼻いんこう・頭頸部外科	Comparison of speech perception lists used to evaluate Japanese single syllable hearing	Auris•Nasus•Larynx. 2022 Jun; 49(3):383-388	Original Article
69	Takumi Okuda, Yuusuke Matsuda, Shiyougo Tsumagari et al.	耳鼻いんこう・頭頸部外科	Speech Perception of Second Cochlear Implant after 6 Years of Age in Prelingually Deaf Children	Indian Journal of Otolaryngology and Head & Neck Surgery. 2022 Oct 1	Original Article
70	Takeshi Nakamura, Akira Ganaha, Tetsuya Tono et al.	耳鼻いんこう・頭頸部外科	Combined Electric acoustic stimulation in a patient with otitis media with antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis	Auris•Nasus•Larynx. 2022 Dec; 49(6):1072-1077	Case report
71	Kayo Tomimori-Gi, Shinji Katsuragi, Yuki Kodama et al.	産科・婦人科	Low-dose aspirin therapy improves decidual arteriopathy in pregnant women with a history of preeclampsia	Virchow Arch. 2022 Nov; 481(5):713-720	Original Article

72	Kayo Tomimori, Yuki Kodama, Hiroyuki Tanaka et al.	産科・婦人科	Myeloid cell thrombus and fetal vascular malperfusion in placentas with transient abnormal myelopoiesis	Virchow Arch. 2022 Jun; 480(6):1181-1187	Original Article
73	Yohei Maki, Yuichiro Sato, Seishi Furukawa et al.	産科・婦人科	Histological severity of maternal and fetal inflammation is correlated with the prevalence of maternal clinical signs	J Obstet Gynecol Res. 2022 Jun; 48(6):1318-1327	Original Article
74	Masatoki Kaneko, Junsuke Muraoka, Naoshi Yamada et al.	産科・婦人科	Association between chorioamnionitis severity and procalcitonin levels in umbilical venous blood	Clinical and Experimental Obstetrics & Gynecology. 2022 Jul 12; 49(7): 160	Original Article
75	Junsuke Muraoka, Masatoki Kaneko, Koutaro Doi et al.	産科・婦人科	Antepartum Antibiotic Therapy under 34 Weeks of Gestation and Its Impact on Early-Onset Neonatal Infection and Maternal Vaginal Microbiota	Microbiology research. 2022 Aug 21; 13: 598-608	Original Article
76	Taketsugu Kawano, Yasuyuki Kawagoe, Midori Fujisaki et al.	産科・婦人科	Remitting Seronegative Symmetrical Synovitis with Pitting Edema Syndrome as a Manifestation of Recurrent Ovarian Cancer	Internal Medicine. 2023 Feb 15; 62(4):629-632	Case report
77	Junsuke Muraoka, Nozomi Yoshimoto, Ayako Ohsawa et al.	産科・婦人科	Fetal distress and neonatal death after thoracoamniotic shunting therapy due to hydrops associated with transient abnormal myelopoiesis	Cureus. 2022 Sep 9; 14(9):e28991	Original Article

78	Tomoko Yamaguchi-Goto, Masanao Ohashi, Yuki Kodama et al.	産科・婦人科	Fetal heart rate patterns complicated by chorioamnionitis and subsequent cerebral palsy in Japan	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research. 2023 Feb; 49(2):625-634	Original Article
79	Norihiro Shinkawa, Eiji Kakizaki, Ai Sonoda et al.	放射線科	Hemorrhagic shock due to ruptured idiopathic intramural hematoma of the sigmoid colon-An autopsy case report	RADIOLOGY CASE REPORTS. 2023 Jan 11; 18(3):1190-1196	Case report
80	Norihiro Shinkawa, Eiji Kakizaki, Ai Sonoda et al.	放射線科	An autopsy case report of tramline bruises with various shapes -histological and mechanistic considerations	Journal of Forensic and Legal Medicine. 2022 Nov; 92:102452	Case report
81	Minako Azuma, Hiroshi Nakada, Mizuki Takei et al.	放射線科	Detection of acute rib fractures on CT images with convolutional neural networks: effect of location and type of fracture and reader's experience	Emerg Radiol. 2022 Apr; 29(2):317-328	Original Article
82	Toyoaki Maruta, Kotaro Hidaka, Satoshi Kouroki et al.	麻酔科	Selective optogenetic activation of NaV1.7-expressing afferents in NaV1.7-ChR2 mice induces nocifensive behavior without affecting responses to mechanical and thermal stimuli	PLoS One. 2022 Oct 6; 17(10):e0275751	Original Article
83	Toyoaki Maruta, Yumi Watanabe, Yukiko Nagata et al.	麻酔科	Epidural Anesthesia and Continuous Epidural Analgesia in a Pediatric Patient With Pelizaeus-Merzbacher Disease: A Case Report	Cureus. 2022 Oct 6; 14(10):e29983	Case report

84	Kotaro Hidaka, Toyoaki Maruta, Tomohiro Koshida et al.	麻醉科	Extracellular signal-regulated kinase phosphorylation enhancement and NaV1.7 sodium channel upregulation in rat dorsal root ganglia neurons contribute to resiniferatoxin-induced neuropathic pain: The efficacy and mechanism of pulsed radiofrequency therapy	Molecular Pain. 2022 Apr 13; 18:17448069221089784	Original Article
85	Kiyotaka Yokogami, Taisei Kikuchi, Takashi Watanabe et al.	脳神経外科	Methionine regulates self-renewal, pluripotency, and cell death of GIC through cholesterol-rRNA axis	BMC Cance. 2022 Dec 23; 22(1):1351	Original Article
86	Mitsuru Tamura, Kiyotaka Yokogami, Takashi Watanabe et al.	脳神経外科	PBRM1 and BAP1: novel genetic mutations in malignant transformation of craniopharyngioma—a case report	Brain Tumor Pathology. 2023 Jan; 40(1):40–44	Case report
87	Shinji Yamashita, Hideo Takeshima, Yoshihito Kadota et al.	脳神経外科	T2-fluid-attenuated inversion recovery mismatch sign in lower grade gliomas: correlation with pathological and molecular findings	Brain Tumor Pathology. 2022 Apr; 39(2):88–98	Original Article
88	Shoichi Horinouchi, Takashi Watanabe, Hideo Takeshima	脳神経外科	Infantile Choroid Plexus Papilloma with Multiple Peritumoral Cysts	World Neurosurg. 2022 Jun; 162:74–76	Case report
89	Takashi Watanabe, Hisao Uehara, Go Takeishi et al.	脳神経外科	Proposed System for Selection of Surgical Approaches for Craniopharyngiomas Based on the Optic Recess Displacement Pattern	World Neurosurg. 2023 Feb; 170:e817–e826	Original Article

90	Hideo Takeshima	脳神経外科	Preface for Brain Tumor Pathology vol. 39 issue 2: (Special issue for the 39th Annual Meeting of the Japan Society of Brain Tumor Pathology)	Brain Tumor Pathology. 2022 Apr 8; 39(2): 45-46	Others
91	Shinichiro Shirouzu, Naohiro Sugita, Narantsog Choijookhuu et al.	歯科口腔外科・矯正歯科	Pivotal role of High-Mobility Group Box 2 in ovarian folliculogenesis and fertility	Journal of Ovarian Research. 2022 Dec 20; 15(1):133	Original Article
92	Aya Izumi, Koji Yamamoto, Makiko Kawaguchi et al.	歯科口腔外科・矯正歯科	Insufficiency of hepatocyte growth factor activator inhibitor-1 confers lymphatic invasion of tongue carcinoma cells	Cancer Science. 2022 Jun; 113(6):2179-2193	Original Article
93	Yu Yamaguma, Takeshi Kaneuji, Shinichiro Shirouzu et al.	歯科口腔外科・矯正歯科	Combination therapy of Mohs paste and chemotherapy improved metastatic oral cancer to the precordium skin and bilateral axillary lymph nodes: A case report	Oral Oncology. 2022 Apr; 127:105817	Case report
94	Toshihiro Gi, Aya Kuwahara, Atsushi Yamashita et al.	病理診断科	Histopathological features of cancer-associated venous thromboembolism: Presence of intrathrombus cancer cells and prothrombotic factors	ATVB. 2023 Jan; 43(1):146-159	Original Article
95	Mayumi Akaki Nagayasu, Tsuyoshi Fukushima, Fumitaka Matsumoto et al.	病理診断科	Supratentorial extra-axial RELA fusion-positive ependymoma misdiagnosed as meningioma by intraoperative histological and cytological examinations: a case report	J Med Case Rep. 2022 Aug; 20;16(1):312	Case report

96	Toshihiro Gi, Shun Nishino, Atsushi Yamashita et al.	病理診断科	Multiple asymptomatic coronary plaque ruptures and fissures in acute myocardial infarction	Pathology International. 2022 Jun; 72(6):355-357	Letter
97	Atsushi Yamashita, Yujiro Asada	病理診断科	Underlying mechanisms of thrombus formation/growth in atherothrombosis and deep vein thrombosis	Pathology International. 2023 Feb; 73(2):65-80	Review
98	Eriko Nakamura, Kazunari Maekawa, Yoichi Saito et al.	病理診断科	Altered choline level in atherosclerotic lesions: Upregulation of choline transporter-like protein 1 in human coronary unstable plaque	PLoS One. 2023 Feb 17; 18(2):e0281730	Original Article
99	Yoshiko Umekita, Kazumi Umeki, Fumiaki Kawano et al.	病理診断科	Unusual papillary thyroid carcinoma with hyalinizing trabecular tumor-like feature in a young female patient: a case report	Journal of Medical Case Reports logo Journal of Medical Case Reports. 2023 Mar 28; 17(1):112	Case report
100	Kunihiko Umekita	検査部	Effect of HTLV-1 Infection on the Clinical Course of Patients with Rheumatoid Arthritis	Viruses. 2022 Jul 1; 14(7):1460	Review
101	Kunihiko Umekita, Yuki Hashikura, Akira Takaki et al.	検査部	HAS-Flow May Be an Adequate Method for Evaluating Human T- Cell Leukemia Virus Type 1 Infected Cells in Human T-Cell Leukemia Virus Type 1-Positive Rheumatoid Arthritis Patients Receiving Antirheumatic Therapies: A Retrospective Cross- Sectional Observation Study	Viruses. 2023 Feb 8; 15(2):468	Original Article

102	Masahiko Nakamura, Tomohiro Abe, Hidenobu Ochiai	救命救急センター	Thrombotic Microangiopathy Secondary to Systemic Sclerosis with Severe Complement Activation Not Responsive to Eculizumab: A Case Report	American Journal of Case Reports. 2022 Jun 7; 23:e936116	Case report
103	Takatoshi Koroki, Tomohiro Abe, Sachiyo Kamimura et al.	救命救急センター	Severe Traumatic Brain Injury in a Patient with von Willebrand Disease Type 2A Successfully Treated with Factor VIII/von Willebrand Factor Concentrates: A Case Report	American Journal of Case Reports. 2022 Aug 30; 23:e936690	Case report
104	Satoshi Kouroki, Toyoaki Maruta, Isao Tsuneyoshi	集中治療部	Effect of cryoprecipitate on an increase in fibrinogen level in patients with excessive intraoperative blood loss: a single-center retrospective study	Journal of anesthesia clinical reports. 2022 Apr 5; 8(1):27	Original Article
105	Kazuhiko Nakame, Tatsuru Kaji, Shun Onishi et al.	総合周産期母子医療センター	A retrospective analysis of the real-time ultrasound-guided supraclavicular approach for the insertion of a tunneled central venous catheter in pediatric patients	Journal of Vascular Access. 2022 Sep; 23(5):698-705	Original Article
106	Kenji Araki, Nobuhiro Matsumoto, Kanae Togo et al.	患者支援センター	Real-world treatment response in Japanese patients with cancer using unstructured data from electronic health records	Health and Technology. 2023 Feb 16; 13:253-262	Original Article
107	Kenji Araki, Nobuhiro Matsumoto, Kanae Togo et al.	患者支援センター	Developing Artificial Intelligence Models for Extracting Oncologic Outcomes from Japanese Electronic Health Records	Advances in Therapy. 2023 Mar; 40(3):934-950	Original Article

108	Manabu Okumura, Tomomi Iwakiri, Naoki Yoshikawa et al.	医療安全管理部	Hepatocyte Growth Factor Enhances Antineoplastic Effect of 5-Fluorouracil by Increasing UPP1 Expression in HepG2 Cells	International Journal of Molecular Sciences. 2022 Aug 14; 23(16):9108	Original Article
109	Yukiko Kai, Takanori Ayabe, Taro Funamoto et al.	医療安全管理部	Approach to seamless pre-and post-graduation medical safety education (1): Questionnaire survey regarding near-miss experiences of Japanese medical students	International Association of Risk Management in Medicine. 2022 May	Original Article
110	Yukiko Kai, Takanori Ayabe, Taro Funamoto et al.	医療安全管理部	Approach to seamless pre-and post-graduation medical safety education (2): Comparative survey regarding near-miss experiences of Japanese medical students and residents	International Association of Risk Management in Medicine. 2022 May	Original Article
111	Saki Tanaka, Takeshi Kawaguchi, Risa Kudo et al.	卒後臨床研修センター	Neuropsychiatric Systemic Lupus Erythematosus with Cerebral Vasculitis and Lupus Nephritis Successfully Treated with High-dose Glucocorticoids and Mycophenolate Mofetil	Internal Medicine. 2022 Oct 15; 61(20):3131-3135	Case report
112	ITAI Koichiro, MIURA Yukari, AYABE Takanori	臨床倫理部	Promotion of patient safety through an enhanced awareness of clinical ethics: Attempts to collaborate between safety management and clinical ethics	Journal of Philosophy and Ethics in Health Care and Medicine. 2022 Dec 1; 16: 64-71	Others
113	Hidehiko Koreeda, Naoki Yoshikawa, Kentaro Minami et al.	薬剤部	Relationship between prognosis and timing of antimicrobial use in the treatment of severe flame burns: a single-centre retrospective study	Die Pharmazie. 2022 Dec 1; 77: 348-351	Original Article

114	Naoki Yoshikawa, Hidemi Takeshima, Kotaro Matsusaka et al.	薬剤部	Association between CYP3A5*3 polymorphism and graft-versus-host disease in allogeneic hematopoietic stem cell transplant patients receiving tacrolimus	Die Pharmazie. 2022 Dec 1; 77:335-337	Original Article
115	Yusei Yamada, Toru Miwa, Masaki Nakashima et al.	薬剤部	Fine-tuned cholesterol solubilizer, mono-6- O- α -D-maltosyl- γ - cyclodextrin, ameliorates experimental Niemann-Pick disease type C without hearing loss	Biomedicine & Pharmacotherapy. 2022 Nov; 155:113698	Original Article

計115件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 手順書の主な内容 申請の方法、審査の方法、重篤な有害事象の報告、実施状況の報告等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 3 回 (持ち回り審査は随時実施)

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 規定の主な内容 利益相反マネジメントの対象及び基準、臨床研究等実施者の責務、委員会の設置等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 2 回 (持ち回り審査は随時実施)

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回 (録画した講習をオンデマンドで視聴可)
・ 研修の主な内容 研究公正と利益相反、臨床研究に関する基礎知識、指針改正の概要等	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科における入院・外来患者についての検討や術前・術後の検討を定期的に行っている。
また、各診療科の専門分野における教育的な症例や稀な症例について検討する場としての研修を
開催している。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師
に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	172人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
海北 幸一	循環器内科 ・腎臓内科	教授	32年	
下田 和哉	肝臓内科 ・血液内科	教授	35年	
宮崎 泰可	呼吸器内科 ・膠原病・感染症 内科 ・脳神経内科	教授	25年	
河上 洋	消化器内科	教授	27年	
石田 康	精神科	教授	37年	
盛武 浩	小児科	教授	29年	
七島 篤志	肝胆膵外科	教授	34年	
武野 慎祐 中目 和彦	消化管・内分泌・ 小児外科	准教授 講師	32年 27年	
古川 貢之	心臓血管外科	教授	28年	
前田 亮	呼吸器・乳腺外 科	准教授	21年	
伊東 大	形成外科	准教授	28年	
坂本 武郎	整形外科	助教	31年	
天野 正宏	皮膚科	教授	36年	
賀本 敏行	泌尿器科	教授	35年	
池田 康博	眼科	教授	28年	
高橋 邦行	耳鼻いんこう・ 頭頸部外科	教授	25年	
桂木 真司	産科・婦人科	教授	28年	
東 美菜子	放射線科	教授	15年	
恒吉 勇男	麻酔科	教授	31年	
竹島 秀雄	脳神経外科	教授	39年	
山下 善弘	歯科口腔外科・ 矯正歯科	教授	29年	
佐藤 勇一郎	病理診断科	教授	32年	

細川 歩	臨床腫瘍科	教授	28年	
落合 秀信	救急科	教授	34年	
荒川 英樹	リハビリテーション科	教授	25年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
別紙のとおり
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 第45回宮崎リハビリテーション研究会 ・研修の期間・実施回数 令和5年2月4日：1回 ・研修の参加人数 49名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

2022年度 附属病院研修実績調査

研修名	内容・プログラム	研修方法	開催回数	開催日	参加者数
附属病院新規採用者オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・事務所手続きについて ・附属病院の電気設備について ・医療廃棄物について ・臨床における倫理について ・医薬品の安全使用について ・患者支援センターについて ・安全衛生保健センターについて ・標準予防策と職業感染防止～患者と自分を守るには～ ・医療機器操作について ・医療安全管理について ・SNSをめぐる情報モラルについて ・SNSをめぐる個人情報保護について ・電子カルテ操作について ・接遇について～生き生きと仕事をするために～ 	オリエンテーション 講義	1回	2022年 4月1日・4日	79名
附属病院新規採用者オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・医療情報の取り扱いについて ・患者の権利と臨床倫理 ・医療安全管理 ・診療録記載と保険診療の留意点 ・標準予防策と職業病感染防止 ・医薬品の安全使用について ・医療機器について ・SNSをめぐる個人情報保護 ・SNSをめぐる情報モラル 	e-ラーニング	随時	随時 (採用日から5日以内(休日を除く))	81名 ※9/30現在
令和4年度第1回医療安全管理・感染対策講演会	①感染部門 「微生物検査の適切な検体採取とアンチバイオグラムの活用について」 ②医療安全管理部門 「ヒューマンエラーを防止する：安全工学の考え方と方法」	講演会	1回	令和4年5月26日 (木)	340名
令和4年度第2回医療安全管理・感染対策講演会	①医療安全管理部門 「医療放射線の安全管理」 ②感染部門 「コロナ禍で再考すべき院内感染対策と抗菌薬適正使用」	講演会	1回	令和4年7月21日 (木)	244名
令和4年度第3回医療安全管理・感染対策講演会	①感染部門 「抗菌薬の適正使用のために」 ②医療安全管理部門 「患者・被験者の「安全」を意識した「臨床倫理」「研究倫理」とは？－あなたの診療・研究は本当に「最善」ですか？－」	講演会	年1回	令和4年10月6日 (木)	157名
令和4年度第4回医療安全管理・感染対策講演会	①医療安全管理部門 「医薬品の適正使用に向けて」 ②感染部門 「当院の感染対策UP-TO-DATE2022」	講演会	年1回	令和4年10月31日 (月)	214名
業務委託先従業員に対する医療安全管理及び感染対策に関する研修	医療安全管理・感染対策について	講演会 DVD研修	9回	令和4年6月9日 (木)、令和4年6月16日 (木)、令和4年6月17日 (金)、令和4年6月22日 (水)、令和4年6月23日 (木)、令和4年6月24日 (金)、令和4年6月27日 (月)、令和4年6月30日 (木)、令和4年9月5日 (月)	242名
令和4年第1回～第2回医療安全管理・感染対策講演会	令和4年第1回～第2回の講演会を収録したDVDを上映	DVD上映	2回	令和4年9月5日 (月)、令和4年9月6日 (火)、令和4年9月7日 (水)、令和4年9月8日 (木)	第1回(5月26日) 上映分(96名) 第2回(7月21日) 上映分(114名)
令和4年第1回～第4回医療安全管理・感染対策講演会	令和4年第1回～第4回医療安全管理・感染対策講演会をまとめたもの	e-ラーニング	1回	2023年1月5日(木)～2023年2月28日(火)	第1回755名、第2回726名、第3回530名、第4回554名
令和4年度特定機能病院承認要件に定めるe-ラーニング職員研修	特定機能病院承認要件に定めるe-ラーニング職員研修	e-ラーニング	1回	令和4年10月3日 (月)～令和4年12月28日 (水)	1500名
復職者研修	<ul style="list-style-type: none"> ・医療情報の取り扱いについて ・患者の権利と臨床倫理 ・医療安全管理 ・診療録記載と保険診療の留意点 ・標準予防策と職業病感染防止 ・医薬品の安全使用について ・医療機器について ・SNSをめぐる個人情報保護 ・SNSをめぐる情報モラル 	e-ラーニング	随時		16名
個人情報保護・情報モラルに関する講習会	個人情報に関する動画を閲覧し、テストを受験する。	e-ラーニング	1回	2022/12/1～2023/3/31	1912名
START式トリアージ講習会	①5/31：基礎講義、トリアージ実技演習、止血帯実技演習 ②6/20：受講経験者を対象とした技能維持のための実技演習（2次トリアージ（PAT式トリアージ）を含む）	講義、実習	年1回	①2022年5月31日 ②2022年6月20日	①28名 ②6名

ロジスティクス研修会	①クロナロジーの記載について ②EMIS、院内EMISの緊急時及び詳細入力について ③傷病者リストの作成について ④衛星電話、簡易無線の操作方法について	講義、実習	年1回	2022年8月16日	14名
病院災害対策本部運営訓練	①災害対策本部の立ち上げができる。 ②CSCAを理解する ③本部レイアウトの重要性を理解する ④適切な情報処理・本部運営が行える。	講義、実習	年1回	2022年9月27日	37名
院内大規模災害訓練	①院内EMIS入力訓練 ②災害対策本部訓練 ③多数傷病者受け入れ訓練 ④災害時トイレ設置訓練	実習	年1回	2022年10月28日	148名
事務職員対象傷病者搬送研修	ストレッチャー、車いす、布担架を使用して傷病者を安全に搬送できる方法を学ぶ	講義、演習	年1回	2022年10月7日	15名
ISO研修会	ISO 15189 (臨床検査室-品質と能力に関する特定要求事項)に定義されている内容の研修	講義	1回	4/20	16
危機管理マニュアル研修会	防災対策マニュアル、BCPについて	講義	1回	4/20	16
LIS研修会	用語の定義、アクセス権限、マスタ変更の手順、HIS・LIS通信トラブル時の対応について	講義	1回	6/1	20
検査部抄読会	症例報告、英語の文献紹介および研究報告等を行う	講義	2回/月	①4/6②5/18 ③7/6④7/20 ⑤8/10⑥8/17 ⑦9/7⑧10/7 ⑨10/19⑩11/2 ⑪12/21	①12②15 ③13④13 ⑤13⑥13 ⑦11⑧11 ⑨9⑩15 ⑪12
緊急検査研修会	各検査項目について、注意事項を再確認しインシデント発生を防ぐ	講義	1回	6/15	17
心肺蘇生・AED講習会	AED使用法、一次救命手順を実技講習にて学ぶ。	実技	1回	6/10	9
暴言・暴力研修会	暴言・暴力の詳細、対応等について聴講する	講義	1回	2023/2/15	15
リハビリテーション合同カンファレンス	4月 症例1. 多系統萎縮症 (脳神経内科) 症例2. 脳炎. 側頭葉てんかん (脳神経内科) 5月 症例1. 食道癌術後膈胸再発 (消化器外科) 症例2. 肘関節骨折後関節症 (整形外科) 6月 症例1. 多発性脳梗塞 (脳神経外科) 症例2. 末梢神経損傷 (整形外科) 7月 症例1. 敗血症性ショック (脳神経内科) 症例2. 胸部食道癌術後 (消化器外科) 8月 症例1. 寛骨臼形成不全 (整形外科) 9月 症例1. てんかん重積 (消化器内科) 症例2. 上腕切断 (救急科) 11月 症例1. 右骨切りTHA (整形外科) 症例2. 咽頭癌術後 (耳鼻科) 12月 症例1. アルコール性距骨壊死 (整形外科) 症例2. 胸髄内腫瘍 (脳神経外科) 1月 症例1. 胸髄硬膜動脈静脈瘻 (脳神経外科) 症例2. 細菌性肺炎 (救急科) 2月 症例1. 廃用症候群 (脳神経外科)	カンファレンス	年10回	R4. 4. 18 R4. 5. 16 R4. 6. 20 R4. 7. 11 R4. 8. 22 R4. 9. 12 R4. 11. 21 R4. 12. 16 R5. 1. 23 R5. 2. 27	35名
作業療法士勉強会	(R4. 5. 10) 移乗動作の介助の仕方 (R4. 7. 12) 事例検討 (R4. 9. 13) 急変時の対応の確認 (R4. 11. 8) 乳がんのリハビリテーションについて (R5. 1. 10) 運動器疾患の呼吸について	論文・解説や個人作成資料を基にした講義形式	年6回	R4. 5. 10 R4. 7. 12 R4. 9. 13 R4. 11. 8 R5. 1. 10	6
理学療法士勉強会	7月: JRATについて 10月: 感染制御について 12月: 管理栄養について 2月: 医療機器について(人工呼吸器、透析)	講義形式	年4回	R4. 7. 19 R4. 10. 20 R4. 12. 1 R5. 2. 20	18
高次脳機能障害勉強会	4月: 症例検討 (脳炎、てんかん) 5月: 症例検討 (脳性麻痺) 6月: 症例検討、和文献抄読 (食事動作における執行の有無) 8月: 和文献抄読 (高次脳機能障害と言語聴覚療法) 9月: 症例検討、和文献抄読 (パーキンソン病と高次脳機能障害) 12月: 症例検討 (認知症と高次脳機能障害) 1月: 和文献抄読 (遂行機能障害について) 2月: 和文献抄読 (高次脳機能障害者のコミュニケーション) 3月: 和文献抄読 (脳卒中後うつについて)	文献抄読 症例検討	年9回	R4. 4. 7 R4. 5. 12 R4. 6. 2 R4. 8. 4 R4. 9. 2 R4. 12. 1 R5. 1. 12 R5. 2. 2 R5. 3. 2	11
診療放射線技師業務研修	ベッド (ストレッチャー) 搬送時における患者移乗の訓練	講義及び実技	6回	2022/5/25	10名
診療放射線技師業務研修	停電時対応・緊急時患者退避訓練	講義及び実技	6回	2022/7/8	6名

診療放射線技師業務研修	骨密度検査装置の取扱	講義及び実技	6回	2022/9/20	13名
診療放射線技師業務研修	Oncentraを用いたRALS治療計画	講義及び実技	6回	2022/9/30	9名
医療機器安全管理研修	人工心肺装置及び補助循環装置 人工呼吸器 血液浄化装置 除細動器(AED除く) 閉鎖式保育器	講義 OJT	複数回	体外循環：4月～8月 保育器：4月～9月 人工呼吸器：6月22日 血液浄化：8月15日	6人 3人 14人 2人
第1回 宮崎大学がんセミナー	未定	講義	1回	2022/9/2	18人
第2回 宮崎大学がんセミナー	未定	講義	1回	2022/9/7	12人
第3回 宮崎大学がんセミナー	未定	講義	1回	2022/9/21	16人
第4回 宮崎大学がんセミナー	未定	講義	1回	2022/9/28	12人
第5回 宮崎大学がんセミナー	未定	講義	1回	2022/9/30	16人
第6回 宮崎大学がんセミナー	未定	講義	1回	2022/10/5	9人
第7回 宮崎大学がんセミナー	未定	講義	1回	2022/10/12	13人
第8回 宮崎大学がんセミナー	未定	講義	1回	2022/10/19	15人
第9回 宮崎大学がんセミナー	未定	講義	1回	2022/10/21	11人
第10回 宮崎大学がんセミナー	未定	講義	1回	2022/10/26	11人
第11回 宮崎大学がんセミナー	未定	講義	1回	2022/10/28	8人
第12回 宮崎大学がんセミナー	未定	講義	1回	2022/11/10	11人
第13回 宮崎大学がんセミナー	未定	講義	1回	2022/11/17	10人
NST院内勉強会	①NESTでの栄養・電解質・内分泌代謝管理 ②基礎研究と臨床研究から学ぶこれからの周術期栄養療法	オンライン講演会	年2～3回		
第8回 医学生・研修医のための呼吸器診療ABC	学内外の呼吸器内科専門医が、医学生・研修医を対象に、肺炎、肺癌、間質性肺疾患などの知識と気管内挿管や気管支鏡などの技能を学ぶ内容。	シミュレーター・講義	1回	2022年7月16日	33名(受講者17名、スタッフ16名)
研修医向け脳神経内科勉強会	①筋電図、②脳卒中画像、③めまい、④神経感染症、⑤神経診察、⑥頭痛	講義	約2回/月	4/19、4/26、5/10、5/24、6/7、6/21、7/12、7/26、8/23、9/13、9/27	各2-5名程度
JMECC (Japanese Medical Emergency Care Course、日本内科学会認定内科救急・ICLS講習会)	動画視聴とシミュレーターを用いた演習 コース総時間は9時間	動画視聴とシミュレーターを用いた演習	1回	2022年6月18日	5名
全職員対象BLS講習会	一次救命処置 (BLS) 教育講習	実技講習	11回	4/11、5/9、6/13、7/11、9/12、10/17、11/14、12/12、1-16、2/13、3/13	97名
合同カンファレンス	血管形成・維持機構のベーシックサイエンスから臨床へ	講演会	1		
第29回九州神経眼科セミナー	教育講演 ショートレクチャー 日本神経眼科学会認定講習会 症例検討会	講演	1回	2022年7月9日・10日	9日：74名 10日：66名
第90・91回宮崎大学眼科研究会	特別講演 一般講演	講演	2回	第90回： 2022年7月30日 第91回： 2023年1月21日	2022年7月30日：48名
第9回・第10回・第11回・第12回眼科診療Update セミナー	特別講演 一般講演	講演	4回	2022年 第9回：5月14日 第10回：11月26日 2023年 第11回：3月18日	2022年5月14日：59名

宮崎県黄斑疾患研究会	特別講演 一般講演	講演	3回～4 回	2022年 第3回：7月6日 第4回：10月19日	2022年7月6日：59名
内科研修医合同カン ファ	毎月内科の各分野ごとに、症例検討⇒レクチャーの形式で行う。	講義	各内科 講座で 年に2 回	2022年 6月20日月曜日 13時～ 研修医セミナー室	15名
内科はじめの一步	超音波装置を用いて腹部エコーのルーチン検査の主義をレクチャー	実技	各内科 講座で 年に2 回	2022年9月26日 18：00～19：00	10人
LIS研修会	用語の定義、アクセス権限、マスタ変更の手順、HIS・LIS通信トラブル時の対応について	講義	1回	5/23	9
危機管理マニュアル研 修会	防災対策対策マニュアル、BCPIについて	講義	1回	4/20	12
化学物質管理に関する 勉強会	化学物質の安全な取り扱いについて	講義	1回	5/11	9
品質マネジメントシス テム	品質マネジメントシステム (Quality Management System, QMS)について	講義	1回	7/28	8
暴言・暴力研修会	院内暴力について	講義	1回	2/15	5
エコー勉強会	スライドの講義に加え、ハンズオンで実際にエコーを当てて講習を行う。	講習会	1回	7/5	10
輸血療法セミナー	特別講演 「輸血のあれこれ」	講演 臨床講義室 105 オンライン	1回	2023/07/07	49名
内分泌代謝科専門医院 内合同カンファレンス	症例発表2題 抄読会1論文	講演及びディス カッション	年4回	2022/4/18 2022/7/11	16名 15名
宮崎大学婦人科がん症 例報告会	症例報告	症例検討	2回	2022. 6. 13	12名
宮崎周産期症例検討会 メンバーおよび希望者	症例報告	症例検討	2回	2022. 8. 16	18名
看護職の倫理	①「看護職の倫理綱領」16項目の行動指針について ②情報モラルについて	講義	1回		
ハラスメント防止研修	ハラスメントについての定義及び知識の習得及びその防止に対する研修を開催し、 もってハラスメントのない快適な職場環境づくりを目的とする。	講義	1回	2022. 11. 2	55名
看護職の倫理	①「看護職の倫理綱領」16項目の行動指針について ②情報モラルについて	講義	1回	4月4日	52名
リフレクション	リフレクティブジャーナルを用いて、入職3ヶ月目、6ヶ月目、12ヶ月目に看護実践を振り返る	講義	各部署 3回	各看護単位で実施	50名
バイタルサイン	①バイタルサインの意義 ②五感で捉えるバイタルサイン ③バイタルサイン・ツイズの考え方 ④患者の“いま”を押さえるバイタルサイン ⑤患者の未来予測のためのバイタルサイン	講義	1回	4月8日	36名
心電図	①解剖学的知識と心電図のつながり ②心電図の読み方 ③不整脈、アラーム対応 ④心電図のモニタリング	講義	1回	4月8日	48名
体液バランス	体液管理に必要な基礎知識	講義	1回	7月22日	45名
医療安全のための基礎 技術	①～⑥の演習 ①患者確認・指示確認の方法（内服薬・麻薬） ②患者確認・指示確認の方法（注射薬） ③注射準備 ④感染予防対策 ⑤輸液ポンプ ⑥シリンジポンプ	講義 演習	1回	4月22日	49名
実践前研修	①～⑦の演習 ①経管栄養法 ②導尿 ③膀胱内留置カテーテル挿入 ④洗腸 ⑤筋肉内注射 ⑥ 静脈採血と検体の取り扱い⑦食事介助（嚥下障害がある場合）	演習	1回	5月19日 5月24日 6月3日 6月21日 6月23日 6月28日	33名
フォローアップ研修	①～⑧の演習 ①排便 ②吸引 ③人工呼吸器の管理 ④直腸内与薬（実践19、20） ⑤中心静脈 内注射の管理 ⑥輸血の準備、輸血中・後の観察 ⑦インシュリン製剤の種類・用 法・副作用の観察 ⑧死後のケア	演習	1回	8月～ 令和5年1月	35名
褥瘡予防ケア 呼吸ケア	①褥瘡予防ケアの演習	講義 演習	2回	6月15日	47名

静脈注射（初級編）	<p><講義></p> <p>①薬の作用、副作用について</p> <p>②感染・針刺し事故防止</p> <p>③解剖学（安全な部位）</p> <p>④留置針による血管確保</p> <p>⑤静脈注射の院内取り決めについて</p> <p>DVD視聴</p> <p><演習></p> <p>⑥血管穿刺の実際シミュレーターを用いた演習</p>	講義 演習 静脈注射実施前に知識レベル評価	4回	<p><知識編></p> <p>既卒 4月20日</p> <p>新卒 7月20日</p> <p>中途採用 10月</p> <p><技術編></p> <p>既卒 5月13日</p> <p>新卒 9月5日～22日</p> <p>中途採用 10月25日、11月11日</p>	16名 34名 3名 15名 33名 3名
静脈注射（麻薬編） ※未受講者は自分の時間で参加可能	<p>①麻薬の作用</p> <p>②疼痛コントロール</p> <p>③麻薬のシリンジポンプ投与方法の注意点</p> <p>④PCAポンプの操作</p>	講義 演習	1回	未受講者9月26日 新規採用11月21日	17名 36名
静脈注射（抗がん薬編） ※未受講者は自分の時間で参加可能	<p>①抗がん剤の作用と急性期の副作用について</p> <p>②曝露対策について</p> <p>③血管外漏出対策について</p> <p>④投与管理の実際について</p>	講義 演習	1回	未受講者9月30日 新規採用	26名 37名
救急蘇生（BLS、AED、気管挿管） 看護単位で実施	部署の状況をふまえた急変時の対応・救急処置の演習	講義 演習	1回	各看護単位で実施	44名
看護記録	<p>①看護記録の目的・法的位置づけ</p> <p>②看護記録の倫理的配慮、カルテ開示について</p> <p>③当院の看護記録の記載方法について</p>	講義	1回	4月11日	50名
新卒者研修 2年目に向けての課題を見つけよう	<p>チーム医療における看護師の役割について（事前レポート）</p> <p>①KJ法的手法を用いたグループワーク</p>	グループワーク	1回	1月24日	31名
セルフコントロール	①感情のコントロール方法を学ぶ	講義 演習	3回	6月9日	48名
新卒者のリフレッシュ研修（今年度追加研修）	現状の情報交換と意見交換	グループワーク	1回	7月22日	31名
既卒者のリフレッシュ研修	現状の情報交換と意見交換	グループワーク	1回	7月22日	12名
看護倫理Ⅰ（今年度追加研修）	<p>①臨床での事例を通して倫理的問題を抽出する</p> <p>②倫理的問題の相談方法について</p>	講義 演習	1回	6月6日	33名
リフレクションⅠ	プロセスレコードを用いて実践した看護場面を振り返る	各看護単位	1回	各看護単位で実施	27名
看護過程Ⅰ	実践した看護過程を事例にまとめる	事例検討	1回	各看護単位で実施	30名
認知症の人とのコミュニケーション ※クリニカルラダーⅠ申請予定者以外でも、自分の時間で参加可	<p>①認知症について</p> <p>②認知症の人のコミュニケーションの特徴</p> <p>③認知症の人のコミュニケーションのポイント</p>	講義	1回	9月2日	43名
今日からできる摂食・嚥下・口腔ケア ※クリニカルラダーⅠ申請予定者以外でも、自分の時間で参加可	<p>①摂食・嚥下・口腔ケアとは</p> <p>②嚥下の評価について</p> <p>③食事介助の具体的な方法</p>	講義	1回	9月12日	30名
チーム医療Ⅰ	チーム医療におけるメンバーの役割についてグループワークする	講義 グループワーク	2回	7月7日	34名
看護研究Ⅰ	学研e-ラーニング「看護研究とは？」	e-ラーニング	1回	各看護単位で実施	37名
看護倫理Ⅱ	Jonsenの4分割法とその活用方法の学習	講義 グループワーク	1回	9月27日	35名
看護倫理Ⅱ	臨床での倫理的問題を、Jonsenの4分割法を用いて分析し、カンファレンスで検討した内容をまとめる	講義 グループワーク	1回	各看護単位で実施	35名
リフレクションⅡ	プロセスレコードを用いて実践した看護場面を振り返る	各看護単位	1回	各看護単位で実施	32名
フィジカルアセスメントⅡ	<p>事例を通して以下の内容を学ぶ</p> <p>①臨床推論</p> <p>②呼吸と循環のフィジカルアセスメント</p>	講義 演習	1回	6月22日 6月24日	40名

人工呼吸器装着中患者の看護	知識：学研e-ラーニング 「ワンステップ上の人工呼吸管理を身につける～病態に応じた人工呼吸器管理～」(45分)	e-ラーニング 演習	1回	各看護単位で実施	38名
人工呼吸器装着中患者の看護	技術：自部署・集中治療部・救命救急センターでの実習	e-ラーニング 演習	1回	各看護単位で実施	38名
看護過程Ⅱ	実践した看護過程を事例にまとめる	事例検討	1回	各看護単位で実施	38名
リーダーシップ研修	チーム医療におけるリーダーの役割について討議する	講義 演習	1回	7月11日	42名
看護研究Ⅱ	①学研e-ラーニング「研究デザインを理解する」「研究テーマの絞り込み」視聴	e-ラーニング	1回	各看護単位で実施	33名
看護研究Ⅱ	②ミニレクチャー(※ラダー申請には不要) ・簡単な文献検索方法 ・研究デザインについて ・質的研究におけるインタビュー方法 等	ミニレクチャー	1回	7月13日 10月12日 11月9日	6名 12名 6名
プリセプター研修	①当院の新人教育プログラムについて ②プリセプターの役割について ③新人の特性に合わせた支援について	講義 グループワーク	1回	4月25日	39名
静脈注射(中心静脈ポート編) ※ラダー申請に必須ではない	講義・演習 ①中心静脈ポートとは ②中心静脈ポートからの薬剤投与について ③中心静脈ポート管理上の注意事項について ④モデルを使用した中心静脈ポートの穿刺と抜針の演習 がんセンターでの実習 ⑤中心静脈ポートの穿刺と抜針の実践	講義 演習 実習	1回	5月9日	19名
【院内認定看護師：養成研修】災害支援ナース	①災害とは何か 災害の定義と災害の種類 特に地震と津波・台風・新興感染症について ②災害医療時の対応 ③基幹災害拠点病院の役割と災害支援ナースとしての活動	講義 演習 グループワーク	2回	11月17日 12月5日 1月27日	8名
【院内認定看護師：フォローアップ研修】スキンケア	①WOC領域の最新の情報 ②管理困難なストーマ患者事例への介入	講義 演習	1回	10月6日	20名
【院内認定看護師：フォローアップ研修】重症集中ケアクリティカルケア	①集中ケア、クリティカルケア領域の最新の情報	講義 演習	1回	11月11日	20名
【院内認定看護師：フォローアップ研修】インфекションコントロール(IC)	IC領域の最新の情報	講義 演習	1回	11月25日	15名
【院内認定看護師：フォローアップ研修】呼吸ケア 呼吸理学療法	①呼吸ケア領域の最新の情報 ・各酸素療法機器の特徴 ②人工呼吸器装着患者の腹臥位療法について	講義 演習	1回	10月18日	32名
看護倫理Ⅲ	①患者の意思決定支援について学ぶ ・アドバンス・ケア・プランニングとは ・患者に合わせたアドバンス・ケア・プランニング	講義 グループワーク	1回	6月10日	20名
リフレクションⅢ	①自己のリフレクティブジャーナルを用いたグループ討議 <受講後> ②スタッフが記載したリフレクティブジャーナルを用いたリフレクションの実施	講義 演習	1回	6月27日	17名
看護過程Ⅲ	実践した看護過程を事例にまとめる	事例検討	1回	各看護単位で実施	9名
臨地実習指導者研修	①臨地実習指導者の役割について ②効果的な指導方法について	講義 ロールプレイ	1回	5月26日	12名
問題解決Ⅲ	①問題解決技法について(例：MECE) ②問題解決プロセスについて (目標 組織化 計画等)	講義 演習	1回	4月27日	13名
看護倫理Ⅳ	①患者・家族の意思決定支援について ・意思決定はできるが、意思決定ができない人への支援 ・意思決定はできるが、意思表示ができない人への支援 ・意思決定も意思表示もできない人への支援 ②倫理的問題に対する医療チームの中の看護職の役割	講義 演習	1回	6月10日	8名
看護過程Ⅳ	実践した看護過程を事例にまとめる	事例検討	1回	6月10日	8名
問題解決Ⅳ	問題解決の過程をレポートにまとめる	問題解決Ⅳ レポート	1回	各看護単位で実施	5名(9月1日現在)
クロスSWOT分析	クロスSWOT分析の演習	講義 演習	1回	4月18日	61名

英語研修	①アドバンスコース ②ベーシックコース	講義	10回 12回	①7月7日、21日、9月8日、15日、29日、10月6日、20日、11月17日、1月19日、2月2日、3月9日、16日 ②7月14日、8月18日、9月8日、22日、10月13日、27日、11月10日、24日、1月12日、26日	①2名 ②2名
SNA(学生看護補助者)研修	1 病院、看護部の機能と概要 2 看護補助者業務における医療安全 3 看護補助者業務における感染対策 4 演習 (速乾性種子消毒、手袋の着脱、患者確認について、電気設備について、患者急変時の対応について、災害時の対応について)	講義 演習	1回	4月22日～2月26日計 28回	34名
病棟別薬剤研修会	①「吸入薬デバイスの特徴と使い分け」 ②「カリウム製剤の取り扱い」 ③「アナフィラキシーを起こしやすい薬剤」	講義	16回	令和4年8月18日～令和4年12月15日	133名
看護管理者専門部会CVポート管理研修会	CVポート管理研修	講義 演習	1回	令和4年10月29日	23名
第14回宮崎リハビリテーション講習会	リハビリテーション講習会	講義 演習	1回	令和4年10月16日	62名
第12回宮崎病理診断フォーラム	呼吸器領域	討論	1回	令和4年10月1日	37名

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 帖佐 悦男
管理担当者氏名	山里 善彦

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	電子媒体（電子カルテ）及び各診療科	<ul style="list-style-type: none"> 原則電子カルテ、ただし紙カルテは外来、入院別に1患者1ファイル方式のID番号順で分類。 エックス線写真は電子媒体に保存 診療録等を本院外に持ち出さない
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	電子媒体で保存
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療支援課 医療安全管理部	電子媒体(医療支援課共有フォルダ内)保存及び医療安全管理マニュアル内保管
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療支援課	電子媒体(医療支援課共有フォルダ内)保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療支援課	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療支援課 医療安全管理部	電子媒体(医療支援課共有フォルダ内)

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	医療支援課 感染制御部	電子媒体(医療支援課共有フォルダ内)保存及び感染対策マニュアル内保管
	第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための委員会の開催状況	医療支援課	電子媒体(医療支援課共有フォルダ内)保存及び 医療支援課内鍵付きキャビネット保管
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療支援課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療支援課 感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療支援課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療支援課	・調剤室、製剤室、薬剤部教授室にて紙媒体で保管
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	手順書：全部署 実施状況：薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	管理課	・各部門に電子媒体で保管
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	各部門	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	各部門	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	管理課	

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療支援課	・電子媒体（医療支援課共有フォルダ内）保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療支援課	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	・薬剤部教授室にて紙媒体で保管
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課	・電子媒体（病院IR部フォルダ内）保存及び病院IR部内鍵付きキャビネットに保管
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課	
		医療安全管理部門の設置状況	医療支援課	・電子媒体（医療支援課共有フォルダ内）保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療支援課	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療支援課	
		監査委員会の設置状況	総務課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療支援課	・電子媒体（医療支援課共有フォルダ内）保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療支援課	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療支援課	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課	
		職員研修の実施状況	総務課	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療支援課	・電子媒体（医療支援課共有フォルダ内）保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管
		管理者が有する権限に関する状況	総務課	
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課			
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
閲覧責任者氏名	帖佐 悦男
閲覧担当者氏名	高橋 圭郎
閲覧の求めに応じる場所	・管理棟3階 ミーティングルーム
閲覧の手続の概要	
・内部者については権限を付与し、閲覧を制限している。 ・外部者については、特に定めていない。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療に係る安全管理の基本的考え方 2. 医療に係る安全管理体制 3. 職員研修・教育 4. 事故報告等の医療安全確保を目的とした改善方策 5. 医療事故等発生時の対応 6. 深刻な感染症事例発生時の対応 7. 患者等との情報の共有 8. 患者からの相談の対応 9. その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（有） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療事故防止のための具体的措置に関する事。 2. 医療安全管理マニュアルに関する事。 3. 医療安全に係る職員の教育及び研修に関する事。 4. 医療事故発生時の原因の分析究明、改善策の立案・実施及び職員への周知に関する事。 5. 改善策の実施状況調査及び見直しに関する事。 6. 医療事故等発生時の家族や患者への対応状況に関する事。 7. インシデントレポート及び事故報告書の分析に関する事。 8. 入院患者の全死亡例の報告及び検証に関する事。 9. 医療安全管理部の業務に関する事。 10. 医薬品に係る安全管理のための体制の確保に関する事。 11. 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に関する事。 12. 医療放射線に係る安全管理のための体制の確保に関する事。 13. その他医療事故等及び医療訴訟に関する事。 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年15回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理に関する講演会（4回） <ol style="list-style-type: none"> 第1回 「ヒューマンエラーを防止する：安全人間工学の考え方と方法」 第2回 「医療放射線の安全管理」 第3回 「患者・被験者の「安全」を意識した「臨床倫理」「研究倫理」とは？-あなたの診療・研究は本当に「最善」ですか？-」 第4回 「医薬品の適正使用に向けて」 2. 講演会（第1回、第2回）のDVD上映（8回） 3. 講演会eラーニング（第1回～第4回）（1回） 4. 新規採用者研修（1回） 5. 特定機能病院承認要件に伴う追加の職員研修eラーニング（1回） 	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 1. 医療安全管理部会議、医療安全管理委員会での対策の検討、事例報告等
 2. リスクマネージャー会議での事例報告及び周知
 3. 作業標準の作成
 4. 医療安全管理マニュアルの作成・見直し
 5. 院内ラウンド
 6. 部署毎の医療安全管理に関する改善計画と改善結果の報告
 7. 院内全死亡例についての検証

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策に対する基本的な考え方 2. 委員会等の組織に関する基本事項 3. 職員研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針報告 6. 抗菌薬適正使用に関する基本方針 7. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 8. 地域の医療施設等との連携に関する基本方針 9. その他の院内感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染の予防に関すること。 2. 感染の情報の収集に関すること。 3. 感染源の追及等のための検査の実施に関すること。 4. 防疫対策の確立に関すること。 5. その他感染対策についての重要事項に関すること。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年17回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理・感染対策に関する講演会（4回） <ol style="list-style-type: none"> 第1回 「微生物検査の適切な検体採取とアンチバイオグラムの活用について」 第2回 「コロナ禍で再考すべき院内感染対策と抗菌薬適正使用」 第3回 「抗菌薬の適正使用のために」 第4回 「当院の感染対策UP-TO-DATE2022」 2. 講演会（第1回、第2回）のDVD上映（8回） 3. 講演会e-ラーニング（第1回～第4回）（1回） 4. 各部署との勉強会（3回） <ul style="list-style-type: none"> ・ リハビリテーション部 ・ 救命救急センター 5. 新規採用者研修（1回） 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備（有）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染症事例や法令に定められた感染症の届出および院内での耐性菌動向サーベイランスを行い、必要に応じて病院長への報告、感染制御部での検討、現場へのフィードバックを行う。 2. 集団院内感染（アウトブレイク）が発生した場合、報告を受けたリンクドクター・リンクナース、感染担当者など当該科の責任者が感染制御部へ報告する。感染制御部は当該科・部門と協力して初期対応、感染拡大抑制に努める。緊急を要する感染症で深刻なものである場合は、医療安全管理部と連携し病院長を本部長とする対策本部を設置し、緊急対策を講ずるとともに 	

再発防止および対応方針を検討する。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 1. 第3回医療安全管理・感染対策講演会 「抗菌薬の適正使用のために」 2. 第4回医療安全管理・感染対策講演会 「医薬品の適正使用に向けて」 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の採用 2. 医薬品の購入 3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項 4. 部署における麻薬の運用 5. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 6. 病棟における医薬品の管理 7. 外来における医薬品の管理 8. 手術部の医薬品管理 9. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱い(収集、提供等)に関する事項 10. 救急部門・集中治療室・総合周産期母子医療センター 11. 輸血・血液管理部門 12. 生命維持管理装置領域 13. 臨床検査部門 14. 画像診断部門 15. 他施設との連携 16. 事故発生時の対応 17. 教育・研修に関する事項 18. 薬剤部部門 <p>上記項目に関し、手順書改定時にチェック表を用いて全項目、各担当者が業務手順書を確認している。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)： 院内製剤 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>医薬品専門部会で情報を把握・収集および審議し、医療安全管理委員会へ報告を行う</p> 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	適宜
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 人工心肺装置及び補助循環装置 機器の取扱説明、心筋保護法説明、システムに関する説明</p> <p>(2) 人工呼吸器 機器の取扱説明、各種アラームと対処</p> <p>(3) 血液浄化装置 機器の取扱説明、トラブルについて</p> <p>(4) 除細動器 機器の取扱説明、機器点検に関して</p> <p>(5) 閉鎖式保育器 機器の取扱説明、機器点検に関して</p> <p>(6) 診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器等） 機器に関する品質管理・精度管理、診療報酬改定等に関する機器管理対応</p> <p>(7) 診療用放射線照射装置（ガンマナイフ等） 機器に関する品質管理・精度管理、診療報酬改定等に関する機器管理対応</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 （有）</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>(1) 人工心肺装置及び補助循環装置 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p> <p>(2) 人工呼吸器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p> <p>(3) 血液浄化装置 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p> <p>(4) 除細動器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p> <p>(5) 閉鎖式保育器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p> <p>(6) 診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器等） メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p> <p>(7) 診療用放射線照射装置（ガンマナイフ等） メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （有）</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： なし</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医療機器の不具合や健康被害等に関する院内外の情報について、医療機器安全管理責任者から必要に応じて病院長並びに医療安全管理委員会へ報告するとともに、院内への周知や対応を行う。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有
<p>・責任者の資格（<u>医師</u>・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者の配置を、「医療に係る安全管理のための指針」及び「医療安全管理体制」に明記している。併せて、医療安全管理責任者は、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者及び医療放射線安全管理責任者を統括する文言を明記している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（5名）
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品情報室の担当者にPMDA、論文情報、製薬企業等から得られる情報を収集・整理させ、重要度、緊急性に応じ通知文書、院内ネットワーク、病棟薬剤師および会議等により情報の周知を図っている</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>調剤時や病棟業務において未承認を含む使用に疑義のある医薬品に関しては、必ず処方医に疑義照会し、必要に応じて処方変更の提案を行い、その結果および警鐘事例を医薬品専門部会、医療安全管理委員会およびリスクマネージャー会議に報告することにより全病院に周知を図っている。</p> <p>・担当者の指名の有無（有）</p> <p>・担当者の所属・職種：（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有
<p>・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（有）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：インフォームド・コンセントの対象となる医療行為について説明と同意に関する記録・同席の基準が遵守されているか質的監査を実施している。リスクSについては記録・同席とも必須とし、リスクAについては看護師の同席は原則とし同席できない場合は説明後に関りをもち、患者等の理解を記録に残すことを指導した。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有
<p>・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>診療録チェックシートを用いた質的監査を多職種で実施し点数判定した評価を診療録監査・IC 委員会へ報告し、指導内容については医療安全管理委員会、病院連絡会で職員全体に周知指導した。監査を実施する構成委員であるリスクマネージャーについては所属する診療録の記載を確認する自己評価を実施し、監査結果を診療科へフィードバックすることにより、所属職員への医療安全管理の教育を実践している。</p> <p>・ 指導内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 診療録記載率向上と適正な記載記録の促進 2. 侵襲を伴う医療行為の説明同意書について共通様式を使用した患者にわかりやすい記載とする 3. 病名は診療・診断の都度登録し、傷病転帰を記載し逐一整理すること 	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有
<p>・ 所属職員：専従（6）名、専任（1）名、兼任（9）名</p> <p>うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（8）名</p> <p>うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（0）名</p> <p>うち看護師：専従（4）名、専任（0）名、兼任（0）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 宮崎大学医学部附属病院医療安全管理委員会（以下「委員会」という。）の運営に関すること。 2. インシデント及び医療事故の原因究明状況の確認及び指導に関すること。 3. インシデント及び医療事故に関する診療録、看護記録等への記載内容の確認及び指導に関すること。 4. インシデント及び医療事故の発生時における患者又は家族等への対応状況の確認及び指導に関すること。 5. 患者からの医療に係る相談に関すること。 6. インシデント及び医療事故の調査及び分析に関すること。 （入院患者の全死亡例報告の検証を含む） 7. 医療安全に係る情報提供及び連絡調整に関すること。 8. 医療安全のための教育・研修に関すること。 9. 医療安全管理マニュアルに関すること。 10. 医療安全の確保に資する診療内容のモニタリングに関すること。 11. 委員会での決定事項の実施状況調査及び見直しに関すること。 12. 医療安全のための啓発、勧告、改善命令に関すること。 13. その他医療事故防止及び医療の安全管理に関すること。 <p>上記、委員会においての決定事項等をリスクマネージャー会議で伝達し職員に周知している。</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（6件）、及び許可件数（4件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）
- ・ 活動の主な内容：

前年度、診療科から6件の申請を受け、5件について高難度新規医療技術評価委員会を開催した（1件は令和5年度開催）。委員会の意見を踏まえ、提供の適否について4件は承認、1件は非該当に決定し、申請を行った診療科長に対し結果を通知した。また当該技術が適正な手順に基づいて提供されたかについては、報告書の提出を受け、実施状況を確認し病院長へ報告を行った。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）
- ・ 活動の主な内容：

前年度、診療科からの申請はなかった。承認中の当該医療の提供について1件実施の報告を受け、実施および遵守状況を確認し病院長へ報告を行った。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年264件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年81件（3b以上）
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

入院患者の院内死亡事例については、毎週1回開催される医療安全管理部会議にて、死亡に至っ

た経緯及び死因を検討し、医療事故調査制度における『予期せぬ死亡』に該当するか否か判定したものを毎月開催される委員会で審議している。

特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象（3b以上）についても同様に、毎週1回開催される医療安全管理部会議にて、経緯及び原因究明等の調査結果を検討し、毎月開催される委員会にて再発防止策を含め審議している。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名：福井大学医学部附属病院）11月7日WEB）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名：三重大学医学部附属病院）11月24日WEB）
- ・技術的助言の実施状況

職員研修において、リスクマネージャー会議やe-learningを活用して実施されているが、受講率が98%であり、出来れば100%受講を目指していただきたい旨の助言を受け、医療安全管理・感染対策講演会と特定機能病院承認要件に伴う追加の職員研修eラーニングの整理を行い、どちらも受講必須とし、受講率100%を目指すこととした。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

宮崎大学医学部附属病院患者相談等取扱要領及び宮崎大学医学部附属病院患者相談室に関する申合せにより、患者からの苦情・相談について適切に対応し医療安全管理部及び病院長に報告をしている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

1. 医療安全管理に関する講演会（4回）
第1回、第2回、第3回、第4回
2. 講演会（第1回、第2回）のDVD上映（8回）
3. 講演会eラーニング（第1回～第4回）（1回）
4. 新規採用者研修（1回）
5. 特定機能病院承認要件に伴う追加の職員研修eラーニング（1回）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者：

2022年度 特定機能病院管理者研修（動画視聴 1日間）

医療安全管理責任者：

2022年度 特定機能病院管理者研修（動画視聴 1日間）

医薬品安全管理責任者：

2022年度 特定機能病院管理者研修（動画視聴 1日間）

医療機器安全管理責任者

2022年度 特定機能病院管理者研修（動画視聴 1日間）

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

（公財）日本医療機能評価機構による病院機能評価（一般病院3、3rdG：Ver.2.0）

認定期間：2023年2月17日～2024年3月31日

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

病院のホームページに、認定情報及び結果の公表を行っている。

・評価を踏まえ講じた措置

評価によって明らかになった課題等の解消のため、関係部署との連携により継続した改善への取り組みを行い、病院サービスの質の向上に努めている。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> 1. 医師免許を有している者 2. 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者 高度かつ先端的な医療を提供する特定機能病院の管理者として、必要な医療安全管理業務の経験及び医療安全管理について十分な知見を有すること。 3. 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者 当院又は当院以外の病院での組織管理経験など、高度な医療を司る特定機能病院の管理者として必要な資質・能力を有し、病院構成員の意見反映に留意しつつ、医療を取り巻く様々な変化に適切に対応し、強いリーダーシップを持って病院経営にあたり、適正な管理運営ができること。 4. 教育・研究・診療に必要な資質・能力を有する者 医学教育、医学研究及び高度医療を担うことができる能力を有すること。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有 ） ・ 公表の方法 大学ホームページに公開している。
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 附属病院の管理運営に関する事項を審議 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 病院連絡会議等で周知している ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 ） ・ 公表の方法 大学ホームページに掲載 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無（ 無 ） 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
帖佐 悦男	○	医師	病院長
海北 幸一		医師	循環器内科科長
菊池 正雄		医師	腎臓内科科長
下田 和哉		医師	血液内科科長
塩見 一剛		医師	脳神経内科科長
宮崎 泰可		医師	呼吸器内科科長
山口 秀樹		医師	内分泌・代謝・糖尿病 内科科長
梅北 邦彦		医師	膠原病内科科長
高城 一郎		医師	感染症内科科長
河上 洋		医師	消化器内科科長
石田 康		医師	精神科科長
盛武 浩		医師	小児科科長
七島 篤志		医師	肝胆膵外科科長
武野 慎祐		医師	消化管・内分泌・小児 外科科長
中目 和彦		医師	消化管・内分泌・小児 外科科長
古川 貢之		医師	心臓血管外科科長
前田 亮		医師	呼吸器・乳腺外科科長
伊東 大		医師	形成外科科長

坂本 武郎		医師	整形外科科長
天野 正宏		医師	皮膚科科長
賀本 敏行		医師	泌尿器科科長
池田 康博		医師	眼科科長
高橋 邦行		医師	耳鼻いんこう・頭頸部 外科科長
桂木 真司		医師	産科婦人科科長
東 美菜子		医師	放射線科科長
恒吉 勇男		医師	麻酔科科長
竹島 秀雄		医師	脳神経外科科長
山下 善弘		歯科医師	歯科口腔外科・矯正歯 科科長
佐藤 勇一郎		医師	病理診断科科長
久富木 庸子		医師	輸血・細胞治療部長
落合 秀信		医師	救命救急センター長
荒川 英樹		医師	リハビリテーション 科科長
此元 隆雄		医師	遺伝カウンセリング 部長
細川 歩		医師	がんセンター長
谷口 正彦		医師	ME機器センター長
永田 賢治		医師	肝疾患センター長
吉村 学		医師	地域総合医育成セン ター長
板井 孝一郎		教授	臨床倫理部長
榮 建文		医師	I V Rセンター長
永田 順子		歯科医師	口唇口蓋裂・口腔育成 センター長
鈴木 斎王		医師	患者支援センター長
綾部 貴典		医師	医療安全管理部長
児玉 由紀		医師	総合周産期母子医療 センター長
渡邊 信二		医師	コミュニティ・メディ カルセンター長
小松 弘幸		医師	医療人育成支援副セ ンター長
金氏 毅		医師	周術期口腔ケアセン ター長
池田 龍二		薬剤師	薬剤部長
福満 美和		看護師	看護部長
山里 善彦		事務職	事務部長
陪席			
菱川 善隆		医師	医学部長
水口 麻子		医師	病院長補佐
猪崎 みさき		臨床検査技師	検査部技師長
小味 昌憲		診療放射線技師	放射線部技師長
竹ノ内 博之		臨床検査技師	輸血・細胞治療部技師

			長
野口 裕史		衛生検査技師	病理部技師長
宮崎 茂明		理学療法士	リハビリテーション部技士長
小田 裕一		臨床工学技士	ME機器センター臨床工学技士長
笹葉 啓子		管理栄養士	栄養管理部副部長
奥村 学		薬剤師	医療安全管理部副部長
神田 久美子		看護師	医療安全管理部副部長
甲斐 由紀子		看護師	医療安全管理部
久保 敦子		看護師	理事補佐
柚木崎 智子		看護師	副看護部長（医療安全担当）
河崎 千穂		看護師	感染対策師長
山下 篤		教授	病理学講座

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有）
- ・ 公表の方法
大学ホームページに掲載

- ・ 規程の主な内容
 - 病院長は、本院の管理運営を総括し、所属職員を監督する。
 - 病院等は、本院の管理及び運営に必要な人事及び予算執行権限を有する
 - 科長や部長等の任命権限
 - 科長及び副科長の解任権限

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - 副病院長 9名（働き方改革・医療情報担当、医療安全管理担当、経営企画担当、診療担当、教育研究担当、地域医療連携担当、女性・若手医師担当、看護担当、事務担当）
 - 病院長補佐 9名（災害・地域貢献担当、メディカルスタッフ担当、薬剤部長、総務課長、管理課長、医事課長、医療支援課長、総務医事課長、女性医師担当）

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
大学で管理者研修を実施している

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	有
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>①医学部附属病院における医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者及び医療放射線安全管理責任者等の業務の状況について医学部附属病院長から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施する。</p> <p>②委員会は必要に応じて、学長又は医学部附属病院長に対し、医療に係る安全管理については是正措置を講ずるようよう意見を述べる。</p> <p>③委員会は上記業務について、その結果を公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（有）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（有）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有）</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>本院ホームページに掲載</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
近本 亮	熊本大学病院 医療の質・安全管理部	○	医療安全管理有識者	無	1
柏田 芳徳	柏田法律事務所		法律に関する識見者	無	1
森川 輝美	市民活動団体 就労支援アストモス		医療を受ける者	無	2

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・ 体制の整備状況及び活動内容
大学業務の監査、分析に関すること。
大学業務の指導、改善に関すること。
- ・ 専門部署の設置の有無（ 有 ）
- ・ 内部規程の整備の有無（ 有 ）
- ・ 内部規程の公表の有無（ 有 ）
- ・ 公表の方法
本学ホームページに掲載

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 <ul style="list-style-type: none"> 予算の作成及び執行並びに決算に関する事項 組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項 ・ 会議体の実施状況（ 年10回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有 ）（ 年10回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 ） ・ 公表の方法 <ul style="list-style-type: none"> 本学ホームページに掲載 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有 ）・ 通報件数（年〇件）・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ 有 ）・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有 ）・ 周知の方法 本院ホームページに掲載

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>特定機能病院としての役割について、病院のホームページ「病院概要」に記載している。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>複数の診療科で受診が必要と判断した場合、コンサルテーションオーダーを使用し他診療科と連携することで、柔軟な対応が可能な体制を整備している。</p> <p>診療科の枠組を超えて、褥瘡対策チーム、緩和ケアチーム、栄養サポートチーム等を組織しており、医師だけでなく看護師や各スタッフが必要に応じて連携し、チーム医療を実践している。</p> <p>手術後の合併症を予防するため、歯科口腔外科と各診療科が連携し、周術期の患者さんの口腔機能管理を実践している。</p>	